週刊 YEAR BOOK

1976
昭和51年

日録20世紀

4|15
平成9年4月15日発行
(毎週1回発行)第1巻第9号
¥560
講談社

角栄逮捕!
政界に激震

日本中が祝福した山下家の五つ子ちゃん
サービス革命!「クロネコ」町を走る
周・毛死去、文革の嵐ようやく終わる

「ロッキード社から五億円」前首相の犯罪！“角栄逮捕”で激震走る

この年二月、史上最大の疑獄といわれたロッキード事件が発覚。エアバス売りこみのため、巨額の工作費がばらまかれた事実が暴露され、摘発の手は、前首相・田中角栄にまでのびていく。五つ子誕生、ミグ亡命事件もかすんでしまうほど、ロッキード一色で明け暮れた年だった。

▲7月27日早朝、「田中前首相東京地検へ出頭」のニュースが流れた。地検の門をくぐって1時間半後の8時50分、逮捕。そして9時35分、東京拘置所へ連行される。共同通信社

◎表紙　東京地検は8月16日に起訴。翌17日、2億円の保釈金を積んで、21日ぶりに出所する田中前首相。共同通信社

▲7月27日、右手をあげて東京拘置所へ入る田中前首相。ヘリから空撮したスクープ写真。読売新聞社

流行語にもなった領収書「ピーナツ一〇〇個受領」

昭和五一年七月二七日午前六時三〇分――東京・目白台の田中角栄（五八）の豪邸に、東京地検の検事らが到着。インターホンで「東京地検です」と告げた。

七時一二分、地検の黒い乗用車に乗った田中が私邸を出た。七時二七分、霞が関の検察合同庁舎に到着。車を降りた前首相は、いつものようにせかせかした足取りで歩き、待ちかまえた報道陣に右手を軽くあげ、得意の笑みを浮かべようとしたが、緊張で頬がふるえただけだった。

「前首相の任意同行」を知った報道陣が駆けつけ、合同庁舎前にカメラマンの大きな輪が広がる中、地検の取り調べ室で逮捕状が執行された。八時五〇分。容疑は外国為替（かわせ）管理法違反だった。

その年の二月六日、米上院の多国籍企

▼2月6日の米上院公聴会。コーチャン副会長が喚問されたため、記者席は満員。

業小委員会の公聴会で、ロッキード社が航空機を売りこむため日本側に三〇億円もの大金を不正に支払ったことが明らかになった。そのうち、同社の秘密代理人で政界の黒幕、児玉誉志夫に渡った二四億円の一部は、国際興業社主・小佐野賢治に流れたこと、ロ社の代理店・丸紅に支払った一部は複数の日本政府高官に渡ったことなどを、ロッキード社のコーチャン副会長が証言したのである。丸紅専務・伊藤宏がサインした「ピーナツ一〇〇個受領しました」という領収書も公開された。

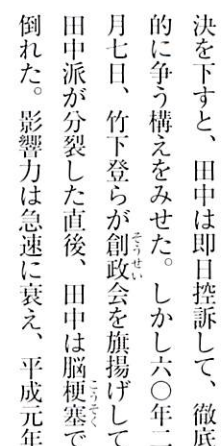
このニュースに日本中は騒然とし、野党は証人喚問を要求、国会は名前のあがった関係者を次々に喚問した。

一方、検察庁は最高首脳会議を開き刑事事件として捜査することを決定し、堀田力検事らが米国に渡り、ロ社の海外不正支払いの資料、同社副会長・コーチャンらの秘密供述記録などの提供を受けた。

四年前の昭和四七年、全日空はダグラス社のDC10の購入を内定していたが、突如、機種をロ社のトライスターに変更。検察は、この決定が賄賂工作によるものとの構図を描いた。賄賂の流れは、ロ社から丸紅を通じて田中に流れた「丸紅ルート」、全日空が政界にばらまいた「全日空ルート」、ロ社から賄賂を受け取った児玉が小佐野に渡した「児玉ルート」の三ルートがあった。

六月二二日から七月一三日にかけて、東京地検は丸紅会長・檜山広、同専務・大久保利春、全日空社長・若狭得治らを次々逮捕。そして、ついにこの日の〝角栄逮捕〟にいたったのである。

八月一六日、田中は受託収賄罪と外為法違反で起訴されたが、翌一七日、保釈金二億円を積んで保釈された。

この間の捜査も担当し、田中の公判廷にも立ち会った堀田力検事（現弁護士・さわやか福祉財団理事長）は次のように当時を振り返る。

「田中を起訴に持ちこめたのは、米国の資料を入手できたこと、国内の大久保、檜山など関係者の供述調書が取れたことの二つがポイントだった」

公判廷で田中は黙秘し、すさまじい形相で睨んだ

田中が首相を辞任したのは四九年の一二月。石油ショックによる物価高騰が内閣支持率を下降させ、月刊誌「文藝春秋」に掲載された立花隆氏の「田中角栄研究——その金脈と人脈」が追い打ちをかけた。そして田中金脈に検察のメスが入る。

▲4月2日正午、東京・平河町の砂防会館で開かれた田中派の総会に、ロッキード事件以来初めて出席。「やましいことはない」と強気の「所感」を述べた。朝日新聞社

▼2月16、17日両日、衆院予算委に証人喚問された小佐野賢治・国際興業社主。朝日新聞社

「ロッキード社から5億円」前首相の犯罪！〝角栄逮捕〟で激震走る

▶衆院予算委員会で、右から全日空前社長・大庭哲夫、ロ社日本支社支配人・鬼俊良、若狭、伊藤、大久保。

田中逮捕で政界は揺れたが、それは奇妙な揺れ方だった。八月に入るとロッキード事件究明に積極的な三木武夫首相おろしの動きが表面化し、福田・大平・田中派ら反主流派が挙党体制確立協議会を結成。一〇月に挙党協は首相後継に福田赳夫を推薦。一二月の総選挙での自民党過半数割れの敗北の責任をとって三木首相は退陣し、福田首相が誕生した。

真相究明に積極的だった三木首相は去り、逆に田中は一層派閥の勢力を拡張し、「闇将軍」として政界に君臨していく。ロッキード裁判を抱えながら……。

「田中は黙秘戦術をとり、公判廷でも黙り通した。私が『質問に答えなさい』とうながすと、すさまじい形相で睨み返した。陣笠代議士ならひれ伏すほどの激しい怒りがこめられていた」（堀田氏）

五八年一〇月一二日、東京地裁が田中被告に懲役四年、追徴金五億円の実刑判決を下すと、田中は即日控訴して、徹底的に争う構えをみせた。しかし六〇年二月七日、竹下登らが創政会を旗揚げして田中派が分裂した直後、田中は脳梗塞で倒れた。影響力は急速に衰え、平成元年一〇月に政界引退を表明。平成五年一二月一六日に七五歳で死去した。

世論の批判にも、政敵の攻撃にも、司法の裁きにも屈しなかった田中だったが、ついに病気にだけは勝てなかった。

▼田中前首相は、起訴後初のお国入りの際1000人を超える訪問者と懇談。意を強くして総選挙立候補を声明し、トップ当選した。読売新聞社

昭和五一年一月三一日、NHK政治部（東京）記者山下頼充・紀子夫妻に五つ子が誕生。それまでに国内で多胎児が無事に成育したケースはなく、五つ子ちゃんたちの一挙手一投足に、日本中が注目した。現在、彼らも二一歳。学生、社会人として、それぞれの道を歩み始めている。

医療チームの努力により五つ子全員が無事に誕生

排卵誘発剤の使用による多胎妊娠だった。紀子さん（二七）が出産のため入院した鹿児島市立病院は、五つの命を守るべく、外西寿彦産婦人科部長を中心にプロジェクト・チームを結成。「従来の多胎児が育たなかったのは全部早産になってしまったから」と考え、しっかり成熟させるために一日でも長くおなかの中で育てようと尽力した。それでも、出産は予定日より二〇日早い一月三一日午後零時三〇分。男子二人、女子三人の五つ子ちゃんが無事誕生したというニュースは、たちまち全国を駆けめぐった。

体重は、一番重い長女が一八〇〇グラム、最も軽い三女は九九〇グラムしかなく、全員が未熟児だったため、ただちに保育器に入れられた。が、生後六日目に次女が壊死性腸炎を起こして危険な状態になり、日本中をハラハラさせたものの二週間後に無事完治。

二月六日、五つ子ちゃんの名前が決まった。長男・福太郎、長女・寿子、次男・洋平、次女・妙子、三女・智子と名づけられた。名づけ親は山下さんが京都勤務時代に懇意にしていた清水寺の大西良慶貫主。観音経の中の「福聚海は無量なり」（聚に代えて寿、海に代えて洋）「観音妙智力」から一字ずつ取っての命名という。

自己主張と強い団結心 個性豊かな五つ子ちゃん

現在、NHK営業総局事務局長になっている山下頼充さんはこう振り返る。

「昼間は妻と母、ベビーシッターで面倒をみていました。夜はひとつの部屋にベビーベッドを五台入れ、そこで寝かせたのですが、夜泣きをすれば五人が一度に泣き出すので、とても妻と二人ではあやすことができないんです。仕方なく、泣いても放っておいたのですが、だんだん泣かなくなりました。よそのお子さんよりスキンシップが少なかったことが不憫でしたが、とても自立心の強い子どもたちに育ってくれたと思います」

経済的な苦労もあったが、五人の子を持つ人はいくらでもいると、粉ミルクやベビー用品のタイアップの申し出を「ヤセ我慢」ですべて断ったという。

それよりも何よりも辛かったのがマスコミ攻勢だったそうだ。

「取材が殺到して真夜中にも記者が押しかける状態。その対応が最大の苦労でした。子どもたちも大勢に囲まれて写真を撮られるのが辛かったことを、今でもおぼえていると言います。そのため、当時を含めてわが家には家族全員、子どもたち揃っての写真がほとんどありません」

五つ子ちゃんは家族で動物園や遊園地、旅行に行ったことがほとんどない。逆に自分たちが人に見られることを嫌がっていたという。できるだけ普通の子どもとして育てたいと願っていた山下さん

▲生後103日目の5月12日、五つ子ちゃんは鹿児島市立病院を退院。東京まで空路約5時間の長旅をした。病院の外の空気に触れるのは初めてで、歓送迎の人波に囲まれたが、臆する様子もなくきわめて元気。新居近くの日大板橋病院に入院した。 朝日新聞社

▲洋平ちゃん。

▲寿子ちゃん。

▲福太郎ちゃん。

▲智子ちゃん。

▲妙子ちゃん。

朝日新聞社

は、小学校入学を機に子どもたちへの取材をすべて断った。
家ではよく喧嘩もし、いつもとてもにぎやかだった。それぞれに個性があり、自己主張もだんだんにハッキリしてきてよい面、悪い面をお互いに注意しあったりもしたという。
「大きくなるにつれ、五人一度に反抗期が来たら大変だなあ、などと心配していたんです。ところが面白いもので、反抗期がずれているんです。五卵性だからでしょうか、個性、体格なども違います。活発な子もいればおとなしい子もいて、五人五様に独自性を主張していく姿を見るのが楽しみになりました」
喧嘩はしても、外に出るととても団結心が強かったという五つ子ちゃん。道を歩く時は手をつなぎ、「車が来るよ」と声をかけあいながら、助け合っている姿がほほえましかったという。
今、四人は大学生で、一人は短大を卒業して社会人。幼い頃は五人一緒に見られることを嫌がったのに、大人になると服の貸し借りをしたり、旅行やコンサートに行ったりするようになった。巣立ちの日が近づくにつれて、「楽しみにしている反面、淋しさもおぼえます」と言う山下さんだ。
山下家以後も国内で五つ子が誕生、特に平成に入ってからは毎年数組の割合で厚生省に報告されているが、正確な数、成育状況の統計はない。

▲9月27日、わが家で全員集合。5人とも離乳は順調。 共同通信社

▼昭和57年4月5日、五つ子ちゃんは東京都大田区南雪谷の清明学園初等学校に入学。 朝日新聞社

女たちの肖像

まぶしいほどの笑顔 今、"再ブーム"の夏目雅子がデビュー

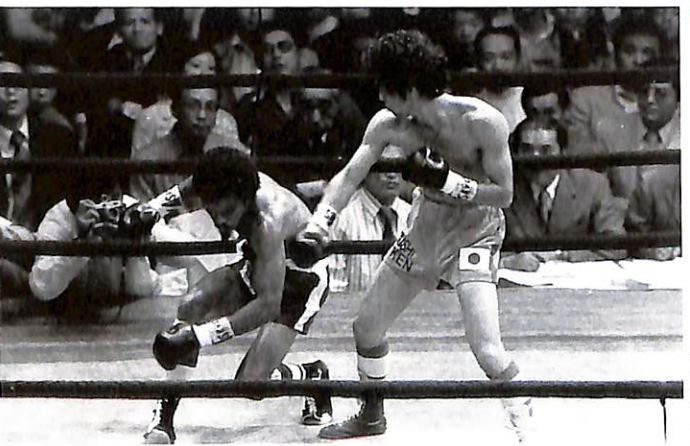
稲葉真弓

ひまわりのように明るい印象を残して消えた女優として知られる夏目雅子が、日本テレビのドラマ「愛が見えますか」のヒロイン・オーディションで、応募者四八六人の中から選ばれて女優デビューしたのがこの年だった。当時東京女学館短大一年生の一八歳。天性の資質に恵まれた少女は、翌年「週刊朝日」の表紙モデルになったのがきっかけで、カネボウ化粧品の夏のキャンペーンガールに抜擢された。この時作られたポスターやCMは、アフリカの砂漠をセミヌードで走るというものだったが、カモシカのようにのびやかな肢体が目を引き、大評判になった。このCMの構成演出をしたのが、当時気鋭のディレクターで後に夫となる伊集院静（現・作家）である。
この後、夏目雅子は本格派女優の道をまっしぐら。昭和五七年には五社英雄監督の「鬼龍院花子の生涯」に出演、「なめたらいかんぜよ」というドスの利いた台詞が流行語になるなど日本中を沸かせた。五社英雄の娘・巴によると、当時夏目雅子はバセドー病にかかっていたという。どうしてもこの役をやりたいため病気を隠してクランク・イン、撮影の初日、監督に病気を告白し、手術を受けたうえで自分の出るシーンに挑んだものだった。役に賭けた意気ごみが伝わってくるエピソードだが、その後「時代屋の女房」「魚影の群れ」「瀬戸内少年野球団」など話題作にたてつづけに出演、女優として輝きを増した。その輝きの中、五九年、伊集院静と結婚した彼女は、自宅の庭で記者会見し、まぶしいほどの笑顔で答えている。「言ってみれば押しかけ結婚かしら。私のようなおしゃべりな女の子がいたら楽しいんじゃないか。そんなことを言い続けて暗示にかけたの」
天真爛漫、天衣無縫、万年童女……。いずれも彼女の魅力を伝える言葉だが、この記者会見からわずか一年余、彼女の体は病魔にむしばまれた。急性骨髄性白血病、血液の癌である。二〇九日にわたる闘病生活にもかかわらず、昭和六〇年九月一一日、二七歳でこの世を去った。
その早すぎた死を惜しむように、平成八年春、キヤノンがCMに彼女を起用。これがきっかけで写真集が出版され、写真展も開催されるなど、時ならぬ「夏目雅子再ブーム」が起こったことはまだ記憶に新しい。

▲昭和60年2月15日、パルコ劇場で舞台公演中に倒れた。

勝者・敗者

九戦目で世界王座獲得！ 具志堅用高の緻密なボクシング頭脳

阿部珠樹

「無謀だ」
「経験がなさすぎる」
ボクシング関係者やジャーナリストのほとんどは口をそろえた。中には、
「世界挑戦を軽く考えすぎる」
とまで酷評するものもいた。八月二三日、協栄ジムがキャリアわずか八戦の具志堅用高（二一）を、世界ジュニアフライ級のタイトルに挑戦させると発表した時、周囲の反応は厳しいものだった。
デビュー以来連勝を続けていた具志堅だが、目立った戦績と言えば、沖縄興南高校時代にインターハイのモスキート級に優勝したくらい。ジュニアフライ級というクラスが新設されてまもなくということもあり、プロ入り後の連勝も、選手層の薄さに助けられたものという見方が少なくなかったのだ。
だが、ジムの関係者は、具志堅の資質を信じていた。具志堅にはこのクラスを制するために必要な抜群のスピードと、クラスの枠をはみ出す強烈なパンチがあった。ハングリー精神だけでぶつかるボクサーにはない、緻密な頭脳も合わせ持っていた。
「ここを、こう打てば、これだけポイントが取れるんですよ」
「倒すか倒されるか」の精神論より先に、そんな言葉が飛び出してくる選手だった。
一〇月一〇日、ファン・グスマンに挑戦した具志堅は、そのボクシング頭脳と破壊力を存分に見せつけた。先手を取って王者の焦りを誘い、出てきた相手をスピードで圧倒しながらパンチを決める。その作戦どおり、第二ラウンドに右フックでダウンを奪い、主導権を握ると、後は相手を翻弄しながら面白いようにパンチを打ちこみ、合計四度のダウンを奪って七ラウンドKO勝ちで王座に駆け上った。キャリア九戦目での世界王座獲得は日本最短記録だった。
以後、具志堅は、一三回の防衛を重ね、四年半にわたって王座に君臨する　この記録は、いまだ越えるもののいない高い峰として、そびえ立っている

◀王座についた後、防衛戦のたびにKOのコツを体得。サウスポーで、エネルギッシュな連打はジュニアフライ級のレベルを超えた。
共同通信社

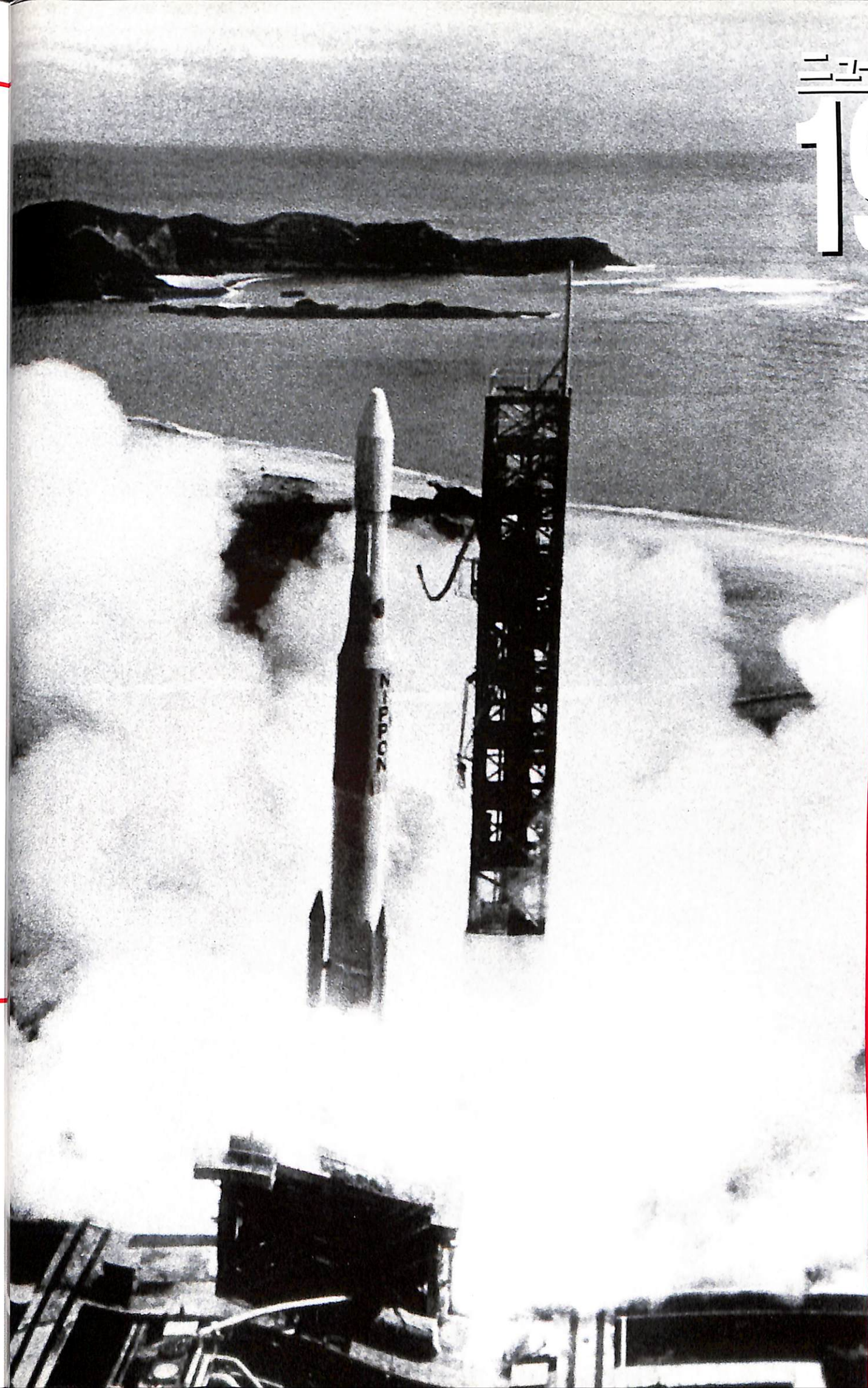
ニュース・ファイル

1976

フォト＋日録で再現する366日

ロッキード事件におおわれた年だったが、王の通算ホームラン世界記録、植村直己の北極圏単独行、日本初の実用衛星打ち上げなどのニュース、さらに「犬神家の一族」で角川映画が、「ペッパー警部」でピンク・レディーが新しく登場した。

◀日本初の実用衛星「うめ」打ち上げ（2月29日）鹿児島県の種子島宇宙センターから発射。予定の軌道に乗ったが、4月2日、バッテリーの過熱で通信途絶。電離層観測をめざした開発事業団の目的は達成できなかった。
共同通信社

1月

時事通信社

▶江夏、南海入り（1月26日）球団から放出の通告を受けていた阪神のエース・江夏豊がこれを了承、南海との間で江本孟紀投手ら3人との大型複数トレードが成立。写真は記者会見にのぞむ江夏。

◀平安神宮、京都の空を焦がす（1月6日）未明、拝殿付近から出火、木造平屋建て寝殿造りの本殿・祝詞殿・宝庫など9棟を全焼、火災報知機のあった大極殿は無事だった。原因は後に放火と判明。

朝日新聞社

▶中央自動車道、強行着工（1月28日）日本道路公団は、この日、沿道住民の反対のため長期中断されていた高井戸―調布間の準備工事に着手。反対派約100人は、同区間の三鷹料金所周辺に金網を張る作業を阻止するため、有刺鉄線の中に座りこむなどの抵抗を続けた。

共同通信社

共同通信社

◀盗難の名画戻る（1月29日）ロートレックの「マルセル」（写真）で、43年に京都国立近代美術館で紛失。時効成立後のこの日、大阪府警に無傷のまま会社員が届け出た。

▲立川談志、放言で政務次官を辞任（1月27日）沖縄訪問中の22日、会見で記者に「出ていけ」と怒鳴ったことが問題化。この日「おれはやっぱり落語家」と辞任した。

共同通信社

昭和51年1月

1（木）●おせちの材料は七〇ヵ国から輸入、と新聞に。
2（金）●放送大学の基本計画公表。UHF使用など。
3（土）●永井文相、「助け合い教育の提唱」を発表。
4（日）●青森市のホテルで宿泊客三二人がガス中毒。
5（月）●フィリピン人がバンコク発東京行きの日航機をマニラ空港で乗っ取る（一〇時間後に投降）。
6（火）●京都市の平安神宮、放火で本殿などを焼失。
7（水）●トヨタと日産が米輸入車販売一、二位と判明。
8（木）●ソ連大使館に侵入をはかった右翼二人、逮捕。●中国の周恩来首相、死去。
9（金）●米国で食品着色剤「赤色二号」に発癌性と報告。
10（土）●青森の青和銀行と弘前相互銀行、合併調印（10月1日、みちのく銀行として発足）。
11（日）●専修学校設置の新基準施行。各種学校を昇格。
12（月）●敦賀原発付近からコバルト60検出される。
13（火）●前年の倒産一万二六〇六件で戦後最多と判明。
14（水）●日ソ平和条約交渉で領土交渉継続の共同声明。
15（木）●徳山市の出光興産の製油所で蒸留塔が爆発。
16（金）●大日本製薬、未提訴のサリドマイド被害者への補償額は、同社負担分で三〇億円と公表。
17（土）●韓国人被爆者の初の招待治療患者が来日。
18（日）●第一回ジャパンボウル、国立競技場で開催。
19（月）●専売公社、前年末のタバコ値上げ前の消費者による買いだめは二五〇億本と発表。
20（火）●日本安楽死協会（後の日本尊厳死協会）設立。●大和運輸、宅配システム「宅急便」を開始。
21（水）●東北・北陸地方の豪雪で夜行など全面運休。
22（木）●九州石油、ブリティッシュ・ペトロリアム社からの恒久的な原油供給契約に合意と発表。
23（金）●政府、戦後初の赤字国債組みこみ予算案提出。
24（土）●西友、「赤色二号」添加食品の販売中止と発表。
25（日）●郵便料金値上げ。はがき二〇円、封書五〇円に。●労働省、五五歳以上の離職者増加顕著と発表。
26（月）●日経連、雇用優先で賃上げは一ケタの方針。●最高裁、政治亡命を認めず韓国人の控訴棄却。
27（火）●多摩ニュータウンで公団初の四LDK分譲。●「沖縄放言」問題で立川談志が政務次官を辞任。●春日一幸民社党委員長、共産党スパイ査問事件（昭和8年12月）の調査を政府に要求。
28（水）●三鷹市で中央自動車道着工に抗議の座りこみ。
29（木）●盗まれたロートレック作「マルセル」を会社員が大阪府警に届け出。
30（金）●第一回東京 世界バレエ・コンクール開催。
31（土）●鹿児島市立病院で五つ子（一男・四女）誕生。

▶ルーブル美術館で絵画が盗まれる(2月1日)中世イタリアの巨匠ジオットの弟子の作品「聖母子像」を、観客の男が壁からはずして満員の館内から堂々と持ち去ったという。

◀成田空港建設反対派の鉄塔を撤去(2月25日)新東京国際空港公団が作業を強行したため、反対派と機動隊が激しく衝突、48人が逮捕された。翌日、公団は機動隊に守られて工事を進めた。

朝日新聞社

▶装飾トラック花盛り(2月)運転台の上部を、派手派手しい色彩のランプや独特の文字や絵で飾りたてた車が、自家営業する運転手の間で大流行。景気が回復し明るさを取り戻し始めたトラック業界を象徴するものだった。

共同通信社

▶中国、ニクソンを歓待(2月21日)特別機で招待の米前大統領が北京入りすると、華国鋒首相代行ら政府首脳が出迎えた。歴史的な米中対話を実現したとはいえ、ウォーターゲート事件で辞任に追いこまれた人物。異例の歓迎ぶりと話題になった。写真は北京の宿舎で懇談するニクソンと華(右)。

共同通信社

▶日航のリニアモーターカー搭乗実験(2月)前年に走行実験成功、今回は、横浜のテストコースで騒音と振動の確認のため二人が試乗した。

共同通信社

◀輪島功一、3度目の王座奪取(2月17日)東京・両国の日大講堂でのWBA世界J・ミドル級タイトルマッチで王者・柳済斗(韓国)を15回KO。写真は試合後の輪島で、「炎の男の奇跡」と讃えられた。

毎日新聞社

昭和51年2月

1(日)●市町村人件費は前年比四二・五%増と自治省。

2(月)●黒柳徹子司会の「徹子の部屋」放映開始。

3(火)●韓国人名「現地語読み訴訟」で、NHKが日本語読みは慣用との答弁書を福岡地裁へ提出。

4(水)●米上院、「ピーナツ一〇〇個」などのロッキード社不法献金の証拠資料を公表。

●冬季五輪インスブルック大会、開幕。

5(木)●政府、武器輸出三原則の統一見解を作成。

6(金)●野党四党、ロッキード献金疑惑の追及を開始。

7(土)●動力車労組、愛媛県青果農協連の「スト権スト」損害賠償請求に対し、みかん輸送を拒否。

8(日)●高砂市で入浜権宣言一周年記念集会、開催。

9(月)●栃木県議会が財政難を理由に公費による海外視察中止を決定、と新聞に。

10(火)●木更津市で病院をたらい回しされた後に死亡した患者の遺族が、県などに損害賠償を提訴。

11(水)●四九年の多摩川決壊被害で国に損害賠償提訴。

12(木)●全国農協中央委、米の消費拡大運動費として農家から米一俵につき一〇円を徴収と決定。

13(金)●公取委、丸善など洋書輸入業九社を強制調査。

14(土)●伊藤忠商事と安宅産業が業務提携の覚書調印。

15(日)●昭島など三市住民が横田基地公害訴訟団結成。

16(月)●衆院予算委、ロッキード事件で小佐野賢治、全日空社長・若狭得治らを証人喚問。

●緒方貞子、日本人女性初の国連代表部公使に。

17(火)●香港沖で日本とソマリアの貨物船が衝突。日本人乗組員一六人が行方不明。

18(水)●横浜銀行新宿支店に短銃強盗。警官二人殺傷。

19(木)●大阪地裁、大東水害訴訟で国の責任を認める。

●米大統領、第二次大戦中の日系人一二万人余への収容所拘禁命令を無効と宣言。

20(金)●役づきが半数超える山梨県が係長全廃と決定。

21(土)●スウェーデンで第一回身体障害者冬季五輪。

22(日)●成田空港の反対同盟が鉄塔死守の決起集会。

23(月)●初のASEAN首脳会議、バリ島で開催。

24(火)●東京地検・警視庁など、ロッキード事件で児玉誉士夫邸や丸紅など二七ヵ所を一斉捜索。

●都教委が自殺や登校拒否防止の手引書を作成。

25(水)●私大医学部の寄付金は一五〇〇万円と文部省。

26(木)●科技庁、超伝導で世界最強の磁場発生に成功。

27(金)●運輸省、日米の運賃ダンピング競争問題で太平洋線就航の航空七社を立ち入り検査。

28(土)●高山市で人力車による「車屋」が営業開始。

29(日)●宇宙開発事業団、初の実用衛星を打ち上げる。

◀児玉誉士夫邸へ軽飛行機突入(3月23日)ロッキード事件に怒った映画俳優・前野光保が、東京・世田谷の児玉邸を特攻隊スタイルで「攻撃」、2階の一部を破壊・炎上させた。前野は死亡、児玉は無事だった。

朝日新聞社

WWP

▲「植物人間」のカレンさん安楽死へ(3月31日)米ニュージャージー州最高裁は、両親が訴える「人間の尊厳死」を認める判決を下した。6月9日、人工呼吸装置がはずされ、9年後の1985年に死亡した。

毎日新聞社

▲北海道庁爆破(3月2日)1階ロビーで時限爆弾が爆発、死者二人、重軽傷者95人の惨事となった。この日は「北海道旧土人保護法」の制定日で、過激派の声明があった。

▼後楽園球場人工芝に衣替え(3月1日)開設40周年を記念して完成、この日公開された。野球以外にも使うためで、費用は3億円。「プロ野球を大きく変える」と話題になった。

読売新聞社

▼東北大卒業式、大荒れ(3月25日)記念講堂にヘルメット姿の学生約20人が乱入、壇上を占拠して演説をするなど式を妨害した。東北大は前年8月以来、サークル部室使用に対する学生の処分をめぐって紛争が起こっていた。

共同通信社

昭和51年3月

1(月)●小・中・高校の主任制度発足。一四県が施行。

●東京の楽園球場が人工芝になる。

2(火)●北海道庁で時限爆弾が爆発。二人死亡、九五人負傷(東アジア反日武装戦線が実行声明)。

3(水)●雛人形の顔が丸顔・豊満になる傾向と新聞に。

4(木)●運輸省、防音工事など新幹線騒音対策を決定。

5(金)●永井文相、偏差値の実態調査を実施と表明。

6(土)●日韓絹製品規制の実務者会談、合意不成立。

7(日)●厚生省調査で医薬分業率はまだ二%と判明。

8(月)●テレビ広告費(四二〇八億円)が初めて新聞広告費を上回る、と電通が推計を発表。

9(火)●警察庁が暴力団一斉摘発。一二八二人を逮捕。

●閣議、国連海洋法会議を前に領海一二カイリと経済水域二〇〇カイリを原則承認と決定。

10(水)●米から移植用腎臓が空輸され北里大へ搬入。

11(木)●思想・信条による解雇が争われた三菱樹脂訴訟で和解が成立、原告の復職決定。

12(金)●宮城県が雑誌「GORO」に性表現規制を要請。

13(土)●警察庁、事故続きのペダル式スケーター禁止。

14(日)●歯科治療の地区別慣行料金は東京都区部と徳島県で最高二・六倍の格差と歯科医師会調査。

15(月)●厚生省、二月の全国の風疹患者は五万三〇〇〇人と初めて発表。

16(火)●郵政省、スト権スト参加の十六万余人を処分。

17(水)●日・イラン合弁石化コンビナートに借款決定。

18(木)●旧帝国ホテルが明治村で復元、公開される。

19(金)●地銀と生保が住宅金融会社の共同設立で合意。

20(土)●政治資金規正法改正で届け出団体半減と判明。

21(日)●クロム被害者が日本化学社長宅前でハンスト。

22(月)●都内の一般道がすべて四〇キロ速度規制となる。

23(火)●特攻姿の男が軽飛行機で児玉誉士夫邸に突入。

24(水)●最高裁、「壇の浦夜合戦記」を猥褻文書と判決。

●アルゼンチンでクーデター、ペロン政権崩壊。

25(木)●処分問題に抗議の学生で東北大の卒業式混乱。

26(金)●第二太平洋横断ケーブル(一・三万キロ)が開設。

27(土)●希望者が減ったため、次年度から中卒者の集団就職廃止を労働省が決めた、と新聞に。

28(日)●京都府網野町で肩の三角筋短縮症児が百余人発生と大腿四頭筋拘縮症児支援団体が報告

29(月)●黒澤明監督の「デルス・ウザーラ」ソ連映画が米アカデミー賞最優秀外国語映画賞を受賞

30(火)●春闘第二波ストに五〇単産が参加 国電運休

31(水)●米ニュージャージー州最高裁、植物人間になったカレンさんに安楽死を認める判

▲奈良の薬師寺金堂、再建(4月1日)この日から落慶法要が始まり、約5000人が参会、江戸期に焼失して以来の再建となった金堂の真新しい朱塗りの扉、金色の鴟尾に見入った。

共同通信社

▼「四畳半」裁判有罪(4月27日)永井荷風作とされる「四畳半襖の下張」を雑誌に掲載、猥褻文書販売罪に問われていた作家の野坂昭如(左)に、東京地裁が厳しい一線を示した。

共同通信社

▲ラオスから元日本兵一家里帰り(4月25日)戦後現地に残留、独立義勇軍に身を投じた下関市出身の山根良人さん(写真左)と家族で、33年ぶりに故国の土を踏んだ。

共同通信社

▶岡山県倉敷市でまた石油事故(4月8日)午前10時頃、日本鉱業水島精油所の脱硫装置が爆発。漏れた原油に引火して3時間余り燃え続け、作業員ら6人が負傷した。

毎日新聞社

共同通信社

▲丸紅、ロッキード疑惑渦中の入社式(4月1日)東京本社に新入社員102人が出席。松尾泰一郎社長が「世間を騒がせているのは残念、やがて潔白が証明されるだろう」と訓辞した。写真は報道陣を閉め出し厳重にガードされた会場入り口。

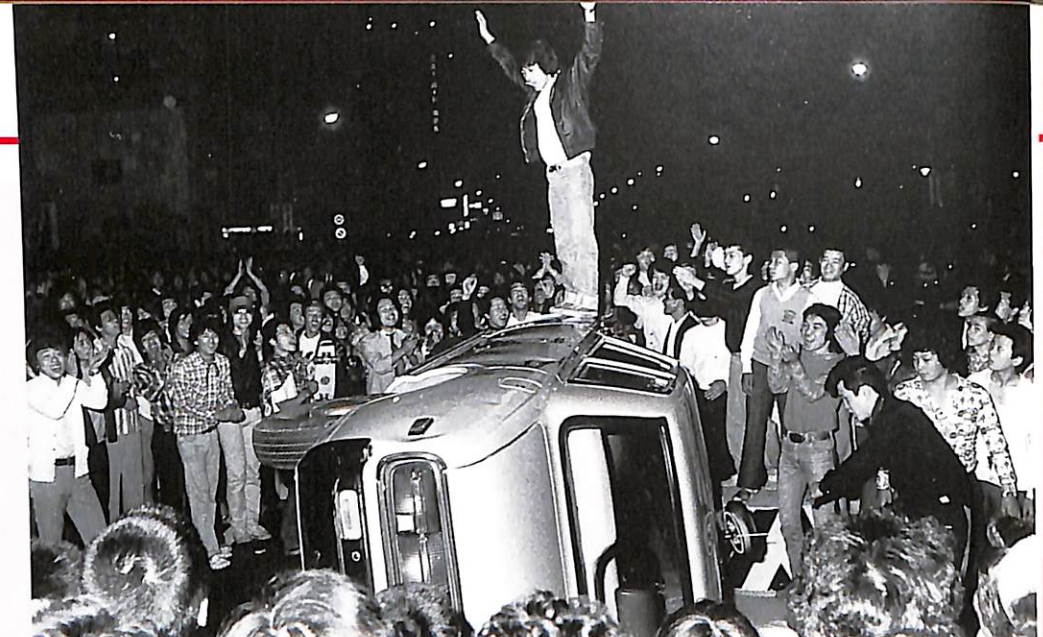
昭和51年4月

1(木)●昭和五〇年の労働生産性が前年比四・九%減で、初めて低下した、と日本生産性本部発表。
2(金)●環境庁、環境アセスメント法の要綱作成。
3(土)●東京新宿にミニコミ集めた「住民図書館」開館。
4(日)●週休二日制完全実施企業は三%と労働省調査。
5(月)●名大と東大の核融合研究グループ、レーザー光による超高温プラズマの生成に成功と発表。
●北京で民衆数万と警察・軍衝突(天安門事件)。
6(火)●私立大夜間部では勤労学生が減少と新聞に。
7(水)●労働省、中高年への失業給付延長を決定。
8(木)●倉敷市の日本鉱業精油所で爆発。六人負傷。
9(金)●新潟県の国営福島潟干拓地で、政府の畑作強制に反対し農民が稲作のため、耕耘を強行。
10(土)●日韓繊維実務者会談が合意しソウルで仮調印。
11(日)●横浜市で暴走族二〇〇台が暴走。七人死傷。
12(月)●日本小児科学会、筋拘縮症の多発などで安易な注射の利用を戒める提言を発表。
13(火)●東京都、前年度の不動産業者に対する行政処分は五七件で、過去最多と発表。
14(水)●最高裁、衆院選の定数不均衡は違憲と新判決。
●西武がシアーズ・ローバック社との提携発表。
15(木)●帰国子女教育など基本施策答申、文相に提出。
16(金)●経常収支は三年ぶり黒字に転換と大蔵省。
17(土)●三重県鳥羽水族館で世界で初めて人工飼育のスナメリに赤ちゃんが誕生(一六日後死亡)。
18(日)●生産年齢人口が戦後初の減少と国勢調査速報。
19(月)●東京・浅草の玩具組合が国鉄ストに抗議デモ。
20(火)●国労・動労・私鉄総連が七二時間ストに突入。
●PLO代表団が初来日(~27日)。
21(水)●前年度の低公害車販売数の割合は二七・五%。
●大内兵衛らの憲法問題研究会が解散。
22(木)●運輸省、羽田空港の騒音軽減のため、深夜の離着陸規制などを実施。
23(金)●電電公社、テレビ会議サービスを開始と発表。
24(土)●一四歳男子の平均身長が二〇年間で一〇・五センチ伸びた、と文部省の学校保健統計調査。
25(日)●ラオスに残留し義勇軍参加の元日本兵が帰国。
26(月)●積水化学、ソーラー・ハウスを発売。
27(火)●東京地裁、「四畳半襖の下張」事件公判で、野坂昭如らに猥褻文書販売罪で罰金の有罪判決。
28(水)●横田基地公害訴訟団が夜間飛行差し止め提訴。
●パリでアイヌ叙事詩「ユーカラ」を海外初演。
29(木)●日ソ漁業交渉妥結。日本のニシン漁は半減。
30(金)●最高裁、コピーも文書と同じと新判断を示す。

証言・あの日この日

殿山泰司(60)

8月某日〈朝からテレビの前に鎮座して高校野球を見る。ほんまにオモロイでえ。ところで、球場で見るとロングだからよくわからねえけどよ、テレビで見てるとさ、時々ハッ!! とするほど美少年の選手のアップが映るのね。オレはべつに美少年趣味じゃないけど、それでも胸がドキドキするときがある〉(殿山泰司『JAMJAM日記』)

プロ野球にも大学野球にもまったく興味のなかった殿山は、しかし、熱心な高校野球ファンだった。長年の高校野球ウォッチャーだっただけに、さすが、高校球児がこの頃からアイドル化していったことを鋭く見抜いている。鹿児島実業のエース定岡正二が話題を集めたのは2年前。そしてこの年は、東海大相模の4番、原辰徳が大人気だ。アイドル化現象は4年後、早稲田実業の1年生エース荒木大輔の登場でピークとなる。 (坪内祐三)

毎日新聞社

▲神戸で暴走族、大暴れ(5月15日)三宮のフラワーロードで約1万人の群衆とともに投石、自動車20台に放火などを繰り返したため、機動隊約1200人が出動。渦中、取材中の神戸新聞記者が死亡した。

▼植村直己、北極圏踏破(5月8日)この日、目的地の米アラスカ州コツビューに到着した。49年12月に犬12頭の橇で単独グリーンランドを出発、1万2000キロを313日間で走った。

毎日新聞社

◀延暦寺が本尊の秘仏を初公開(5月6日)この日伝教大師の出家得度1200年を記念して、大師の自作とされる薬師如来像を一般に披露した。この像は信長の比叡山焼き打ちの際、岐阜県横蔵寺にあったため難を逃れた。

共同通信社

共同通信社

▲鹿児島県の桜島、また爆発(5月17日)大音響とともに噴煙が上空2700メートルまで上がり、噴石で山麓の小学校の窓ガラスが割れるなどの被害が出た。

◀「黒い殺し屋」、沖縄にまた飛来(5月19日)米空軍のB52戦略爆撃機など19機が台風避難のため嘉手納基地に着陸。ベトナムに向かうB52が沖縄に飛来した。

共同通信社

昭和51年5月

1(土)●前年の全国の高額所得者上位一〇〇人中、九四人が土地譲渡益による、と国税庁。
2(日)●日本車椅子バスケットボール選手権大会開催。
3(月)●二四年ぶりに政府主催の憲法記念日式典開催。
4(火)●チッソ元社長と元工場長、水俣病の刑事責任を問われ業務上過失致死傷罪で起訴される。
●第一回重要無形民俗文化財に三〇件指定。
5(水)●新潟の風呂桶職人が受注減を苦に一家心中。
6(木)●延暦寺、本尊の薬師如来を初めて一般公開。
7(金)●椎名自民党副総裁と田中前首相、ロッキード事件究明に取り組む三木首相退陣で合意。
8(土)●植村直己、北極圏単独犬橇踏破に成功。
●歌手の克美茂、愛人殺害と死体遺棄で逮捕。
9(日)●奈良の薬師寺金堂落慶法要(三九日間)終了。
10(月)●八王子市の中央自動車道で「ハイウエー遊び(道路横断)」の幼児二人が車にはねられ死亡。
11(火)●東京の山岳同志会、ヒマラヤのジャヌー峰(七七一〇メートル)北壁からの初登頂に成功。
12(水)●環境庁、大鳴門橋建設に同意と公団に通知。
13(木)●農林省の調査で化学肥料の使いすぎと連作で、全国の畑地の六七%が重症、と新聞に。
14(金)●衆院にロッキード問題調査特別委員会設置。
15(土)●神戸祭りで暴走族見物の群衆が暴れ一人死亡。
16(日)●岡山県の陸上自衛隊日本原駐屯地で、演習反対派農民と自衛隊員が衝突。九〇人負傷。
17(月)●日教組が教科削減など教育課程改革案を発表。
18(火)●中央自動車道の高井戸—調布間が開通。
19(水)●東京高裁、白川義員の写真を合成したマッド・アマノの著作権侵害を否認する逆転判決。
20(木)●都内中学の八割が授業中に業者テストと判明。
21(金)●警視庁、池田大作創価学会会長の女性スキャンダル記事掲載の「月刊ペン」編集局長を逮捕。
22(土)●部落解放同盟、狭山事件で石川被告逮捕に抗議して同盟休校を実施。全国で一〇万人参加。
23(日)●クロロキン被害者の会、製薬・販売会社六社の幹部を傷害罪で告訴すると決定。
24(月)●参院、核拡散防止条約の批准承認を可決。
25(火)●新幹線の乗客数が一〇億人を突破。
26(水)●自治省、地方公務員の人件費抑制などを通達。
27(木)●市販の喘息薬から覚醒剤密造の五人逮捕。
28(金)●米ソ、地下核実験制限条約に調印。
29(土)●奥別府に九州自然動物公園がオープン。
30(日)●外務省、占領期外交記録一〇万ページを初公開。
31(月)●米軍立川基地の一部一〇〇万平方メートル返還。

▼新自由クラブ誕生(6月25日)自民党を脱党した河野洋平(左)、山口敏夫(後列右)、西岡武夫(後列右から二人目)ら6人が結成、河野を代表に清心さを訴えた。

▲「三木おろし」休戦(6月21日)前月、椎名自民党副総裁の三木首相退陣工作が明るみに出たが、この日、灘尾総務会長を調停役に両者は、ひとまず握手を交わした。

共同通信社

共同通信社

▲南ア共和国で黒人暴動(6月16日)ヨハネスバーグ郊外の黒人居住区ソエトで、現地公用語を強制する白人政権に反発する学生約1万人と警官隊が衝突。21日までに128人もの死者を出した。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▼看板倒れ「世紀の一戦」(6月26日)東京・日本武道館でプロボクシング世界ヘビー級王者のモハメド・アリと、プロレスのアントニオ猪木が対戦したが、見せ場のない15回引き分け、観客をしらけさせた。

共同通信社

WWP

▲イタリア共産党、大躍進(6月21日)4年ぶりの総選挙でキリスト教民主党の263議席に迫る227議席を獲得。またローマ市議選では第一党になり、ローマ市役所前は喜ぶ市民で埋まった。

共同通信社

▲中原誠永世名人に(6月11日)第35期将棋名人戦で、米長邦雄八段(右)を破って5連覇。中原は永世名人の資格を獲得、57年に加藤一二三九段に敗れるまで9連覇した。

昭和51年6月

1(火)●電電公社、光ファイバー通信を開発と発表。
2(水)●動燃、遠心分離法のウラン濃縮装置を公開。
3(木)●経企庁、五〇年度実質GNP三・一%増と発表。
4(金)●訪問販売等に関する法律公布(12月3日施行)。
5(土)●葛飾区で「暴走族を閉め出す決起大会」開催。
6(日)●公害被害者六八団体が東京で交流集会を開く。
7(月)●日本ペンクラブ理事会で、石川達三会長の「二つの言論の自由」論を野坂昭如ら厳しく批判。
8(火)●米でロッキード社副会長コーチャンら三人への日本からの嘱託尋問を開始。
9(水)●千歳市風不死岳でヒグマに襲われ二人が死亡。
10(木)●埼玉県知事選で革新系の畑和が無投票当選。
●東京・夢の島に第五福竜丸展示館が開館。
11(金)●米の特殊鋼輸入規制の合意書簡に日米調印。
12(土)●血糖降下剤発売以来、四九五人が重症低血糖症になり、そのうち四八人が死亡と判明。
13(日)●日本住宅公団の調査で、賃貸六三〇〇戸・分譲二七〇〇戸が未入居と判明。
14(月)●鹿児島県、石油備蓄など新大隅開発計画発表。
●大蔵省、海外への円・外貨持ち出し制限緩和。
15(火)●離婚後の姓選択、戸籍簿の閲覧制廃止など民法・戸籍法改正、施行。
16(水)●厚生省、調査した母乳のすべてからPCB・BHCなどを検出、と調査結果を発表。
17(木)●鹿児島県で小学生がチャンネル争いで自殺。
18(金)●日印合同の女性登山隊がヒマラヤのアビ・ガミン峰(七三五五㍍)に女性初の登頂成功。
19(土)●国鉄のボーナス支給遅延が大蔵省融資で決着。
20(日)●大手企業の退職金は一〇〇〇万円超と労働省。
21(月)●国際捕鯨委総会。ナガスクジラの全面禁止など捕獲枠の大幅削減を決定。
22(火)●国鉄、財政難から新幹線駅構内の広告を解禁。
●ロ事件で大久保利春丸紅前専務ら四人を逮捕。
23(水)●兵庫県姫路署署長と山口組幹部との交際判明。
24(木)●通産省、多国籍企業の活動規制強化を決定。
25(金)●河野洋平ら六議員、新自由クラブを結成。
●主婦のテレビ視聴は約五時間とNHK調査。
26(土)●東京でボクシングのモハメド・アリとプロレスのアントニオ猪木の異種格闘技戦開催。
27(日)●革労協と革マル派の内ゲバ三件起き二人重傷。
28(月)●愛知県で稲の新害虫(イネミズゾウムシ)発見。
29(火)●東京地裁、CMへの映画無断使用で主演の英俳優マーク・レスターの肖像権を認める。
30(水)●五〇年度個人貯蓄は平均一五〇万円と日銀。

奥村健太郎

「現場」を歩く 函館

今はロシアと最も身近な空港に ミグが舞い降りた日

山本徹美

▲現在の函館空港。管制塔から滑走路を見る。函館空港は昭和36年4月に開港した。

昭和五一年九月六日午後一時四二分、函館空港の上空に轟音とともに三角翼の戦闘機が出現、低空で旋回した後、いきなり着陸を試みた。が、失敗。

管制官らは、初回タッチダウンをした時、機体に赤い星のマークがあるのを見逃さなかった。現場に居合わせた鈴木次郎管制官が回顧する。「ソ連のミグ25でした。この戦闘機は自爆用に大量の爆薬を搭載していると聞いていた。すぐに空港を全面閉鎖し、警察に通報しました」

ミグ戦闘機は、再度、強行着陸を敢行、勢いあまってバウンドし、滑走路をオーバーラン。東側を突き抜け、機首を斜めにひねり、ようやく停止した。

そこへ真っ先に駆けつけたのは空港で工事をしていた建設会社の現場監督だった。夢中で写真撮影していると、操縦席からパイロットが現れ、ピストルを取り出し、天に向け一発放った。時は東西冷戦のさなかである。相手はソ連の兵士。震え上がった現場監督は自主的にカメラからフィルムを抜き取り、渡した。が、パイロットにしてみれば「非戦闘」の意思表明をするための号砲だったと思われる。

領置の波紋

正式名ミコヤンM-iG25A戦闘機は、一九六七年に初登場以来、世界最高性能を喧伝されながらも実態はまったくの謎に包まれていた。その現物が函館空港に舞い降りてきたのだ。操縦してきたビクトル・イワノビチ・ベレンコ空軍中尉(二九)は警察に保護されると、米国への亡命を希望した。

ニュースはまたたく間に全世界に。今でこそ年間二二〇万人でにぎわう函館空港だが、当時は年間五八万人、一日平均一六〇〇人程度の利用客しかいなかったローカル空港HAKODATEは急拠、世界中から注目された。ミグを一目見ようと観光バスを仕立てて見物客が押し寄せる。英、伊、西独、ユーゴスラビアなどの駐日武官が撮影する姿もあった。

ソ連はミグの即時返還を要求したが、日本政府はこれを「領置」し、さらに米軍の手によって茨城県の航空自衛隊百里基地に移された。ミグが日立港から貨物船でソ連に返還されたのはこの年の一一月一五日であった。

それから二〇年、現在の函館空港を訪れてみた。ミグの停止した地点は滑走路東側が延長されたため、ちょうど飛行機の離着陸ポイントとなっている。函館空港ビルデング(株)の新見寿三管理部長が振り返る。「ソ連が取り返しに来る。津軽海峡に潜水艦や空母がいた、などと噂が流れた。ひとつ間違えばここが戦場と化した可能性もあり、ぞっとしました」

ミグ返還をめぐって、一時、日ソ関係は険悪化、防衛庁はここぞとばかりに予算強化を訴えた。平成二年七月には最新鋭レーダーが設置され、低空接近機の補捉も可能になった。が、それもすでに過去の話。ソ連邦解体後は「脅威」も薄れ、平成六年、函館―ユジノ・サハリンスク間に定期航空路が開設され、今や函館はロシアと最も身近な空港となった

読売新聞社

▲昭和51年9月6日、函館空港に強行着陸したミグ25型戦闘機。操縦士・ベレンコ空軍中尉は、9月9日、米国に亡命。

ベストセラー
繁栄の時代の青春を描く『限りなく透明に近いブルー』

この年のミリオンセラーとなった村上龍の『限りなく透明に近いブルー』は、「群像」新人賞を受賞した時から、埴谷雄高や井上光晴らが絶賛するすごい新人が出てきたと、ジャーナリズムの間で話題にのぼっていたが、実際にその作品が「群像」六月号に掲載され、さらに芥川賞を受賞すると、ベトナム戦争の影を色濃く落とした米軍基地の町と、そこに住む若者の、麻薬やセックスに明け暮れる日常という、作品の舞台がもっぱら注目されることになった。

もちろんそのような舞台そのものも目新しく衝撃的だったが、モコ、リュウ、オキナワなど、登場人物のカタカナ表記が自然に物語の雰囲気を生み出す手法や、あたかも映画のカメラの位置に視点を置いたような客観性の強い文体も新鮮で、その後の村上龍の活動を予感させるものがあった。

同じ年に〝シティボーイ〟向けと銘打った雑誌「ポパイ」が創刊されたが、こちらは『限りなく透明に近いブルー』と対照的な世界で、明るく健康的な都市生活が、写真を多用してカタログのように展開された。創刊号がカリフォルニア特集で、UCLAの学生生活をこと細かに追っているのも斬新な試みだった。

一方、硬派の小説もベストセラーに名をつらねた。なかでも山崎豊子の『不毛地帯』は、シベリア抑留と、奇跡と言われた日本経済の繁栄、その先陣を切った商社の活躍などをひとつながりに描きながら、商社と政治との癒着にも斬りこんだ力作で、登場人物に実在の人物を当てはめてノンフィクションのように読むこともでき、折からロッキード事件が起こったこともあり話題を呼んだ。

●昭和51年のベストセラー

順位	書名(著者／出版社)
1位	『限りなく透明に近いブルー』(村上龍／講談社)
2位	『人間革命(9)』(池田大作／聖教新聞社)
3位	『不毛地帯』(全2巻／山崎豊子／新潮社)
4位	『青春の門 堕落篇(上)』(五木寛之／講談社)
5位	『革命の大河』(上藤和之・大野之／聖教新聞社)
6位	『翔ぶが如く』(全7巻／司馬遼太郎／文藝春秋)
7位	『知的生活の方法』(渡部昇一／講談社)
8位	『毎日が日曜日』(城山三郎／新潮社)
9位	『ちょっとキザですが』(磯村尚徳／講談社)
10位	『火宅の人』(檀一雄／新潮社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『限りなく透明に近いブルー』(690円)

▲『不毛地帯・1』(970円)

▲「ポパイ」創刊号(平凡出版、780円)

スターと名場面
日本初のハードコアポルノ「愛のコリーダ」、仏で公開

この年、日本の映画界に揺さぶりをかけるようなことが起こった。大島渚監督がハードコアポルノ「愛のコリーダ」で成功をおさめたのである。国内では製作不可能と思われていたが、フランスのドーマンと日本の若松孝二が共同で製作、フランスからフィルムを輸入し日本で撮影、それをフランスで現像し配給するという、ゲリラ的方法で、現実のものとした。

題材となったのは、昭和一一年の阿部定事件。愛する男を合意のうえで絞殺し、そのシンボルを切り取って持ち歩いた猟奇事件である。そのヒロイン阿部定と、愛人・吉蔵との出会いから事件の日までを、幻想的なシーンを交えながらリアルに描き出した映画で、映像表現の面でも、画期的な内容を持っていた。

同じ頃、若手の長谷川和彦が中上健次の『蛇淫』を原作とした「青春の殺人者」を撮っていた。昔からの風景が急速に失われていった地域(農村にできた成田空港付近や京葉コンビナートが舞台になっている)で起こった両親殺人事件をテーマとしたこの映画は、若者の鋭い感受性をストレートに映像化した作品として、今もその新鮮さを失っていない。

同時期にテレビではピンク・レディーがデビューし、その衣装と振り付けで、テレビ時代の芸能の先駆けとなった。

川喜多記念映画文化財団提供

▲吉蔵役の藤竜也(下)と阿部定役の松田英子(上)は、その役作りに全力を傾けた。

東宝提供

◀主役の青年を水谷豊(左)が熱演。共演・市原悦子(右)。(「青春の殺人者」)

▼「ペッパー警部」でデビューしたピンク・レディーは、たちまち幼い子どもたちまで引きつけ、幅広い層のファンを獲得した。

ビクターエンタテインメント提供

モノ語り'76
カメラ、ビデオに「ラッタッタ」家庭にハイテク機器が続々入りこんだ

▲**切符が大流行**　実在する駅がブームになった。NHKテレビで紹介されたのを機に、その駅名を刷りこんだ切符が爆発的な人気を呼んだのである。北海道のローカル線(廃線となって現在は存在しない)の駅にすぎなかった、「愛国」駅が発行する「幸福」駅行きの切符が、この年だけで900万枚売れ、翌年には1000万枚を突破して記念切符も発売されるほどだった。

▲**ここにもコンピュータ**　キヤノンが世界で初めてのマイクロコンピュータ内蔵の完全自動化カメラの開発に成功し、「キヤノンAE-1」として発売した。露出やシャッタースピードなど、カメラシステム全体をマイクロコンピュータで制御する新製品で、製造工程にもコンピュータを導入してコスト減をはかり、標準レンズとケースつきで8万5000円と、従来の常識を超える価格を実現した。

▼**家庭用ビデオデッキついに登場**　この年の9月9日、日本ビクターはVHS(ビデオ・ホーム・システム)方式のビデオデッキをマスコミに公開、その1号機「ビデオカセッターHR3300」を25万6000円という価格で発売した。小型で軽い本体、映画やスポーツを録画できるようにと考えられた標準2時間録画を実現した、まさに家庭用ビデオデッキの登場だった。普及のためにはソフトの互換性が絶対的に必要だったから、前年から他社との整合性をはかり、発売にこぎつけたものの、結局はベータ方式と並列状態となってしまった。

▼**気楽にラッタッタの時代**　初心者にも楽に乗りこなせる50ccの二輪車「ロードパル NC 50」が本田技研工業から発売されロングセラーになった。5万9800円という価格もさることながら、キックペダルをなくして、ほとんどハンドルまわりの操作だけで簡単に始動できるシステムなど、使い勝手のよさと、バッテリーなどの電装品をシート下に納めるといったデザインのスマートさで、「ラッタッタ」の愛称とともに女性層にも大人気だった。

▶**室内でも写るんです！**　富士写真フイルムはこの年、世界に先駆けて、カラープリント用ネガフィルムの感度を従来から一気に4倍も高めた、高感度フィルム「フジカラーF-Ⅱ400」(24枚撮り670円)を発売した。室内でもストロボを使わないで撮れるという、この高感度フィルムの登場でアマチュアの撮影領域がぐんと広がった。また海外市場へも進出するなど、日本の写真技術史に足跡を残す画期的な商品となった。

▼**これでも健康機器だった**　運動不足を懸念する声に乗って一世を風靡した感のある「ルームランナー」は、3万6500円という価格にもかかわらず少なくとも60万台は売れた。日本ヘルスメーカー(現在所在不明)が発売したこの商品は、機器の上でひたすら足踏みするだけ。歩数を距離に換算して目盛りに表すという工夫はあったものの、まさしく時代が生み出したヒット商品と言うべきものだった。

株式会社ジャパンヘルス提供

▼**英語は幼児のうちに**　視聴覚教育機器の開発にも力を入れていたソニーが、遊びながら英語が学べる幼児用の教育機器「トーキングカード」を発売した。絵入りのカードを器械に差しこむと音声が出るという、簡易テープレコーダーのような仕組みで、英語の童謡や物語、単語などのカードとセットで2万9600円だった。

◀昭和五一年、日本医科大学皮膚科研究室で、治験用ワクチンの希釈作業をする丸山博士。背後の黒板には、ドイツの細菌学者エールリッヒの言葉「納屋の中でも研究はできる」が記されている。 野上透

人物クローズアップ

丸山千里（七五）

癌の特効薬か、「ただの水」か 独創的ワクチンの認可を申請

◀昭和57年12月、患者の家族と面談する丸山博士。日本医科大学付属病院にて。 野上透

昭和五一年一一月二九日、ゼリア新薬工業が厚生省に抗悪性腫瘍剤（抗癌剤）SSM（通称丸山ワクチン）の認可を申請した。開発者は丸山千里博士（七五）。丸山は明治三四年長野県生まれ。若い頃、二度にわたり結核に苦しんだ彼は、昭和一九年、母校・日本医科大学付属医学専門部教授に就任すると、結核ワクチンの開発にとりかかった。完成したワクチンには、ハンセン病への治療効果もあることが判明したが、この研究中に気づいた事実が彼の人生を大きく変えた。その事実とは、結核やハンセン病患者が癌にかかりにくいことだった。二つの病菌に癌細胞をおさえる働きがありそうだとにらんだ丸山は、結核ワクチンで癌患者が救えるのではないかと思うにいたった。

「結核菌で癌を治すというアイデアは、まったく独創的でした。もし丸山博士が学会の主流派に属していたら、丸山ワクチンは、別の運命をたどったかもしれない。癌治療の専門医でもなく一私大の教授にすぎない丸山博士は、認可の権限を持つ学会主流派に歓迎されなかったのです」と、二〇年にわたり丸山ワクチンを追跡してきた作家の井口民樹氏は語る。

そのうえ丸山が「ほかの抗癌剤を併用すると丸山ワクチンの治療効果を損なう」と説いたことが、主流派の反発を招いた。丸山は、ワクチンが体内の健康な細胞を刺激して抗体を作る免疫療法にこだわっていた。だから、いくら効き目が顕著でも、癌細胞も健康な細胞も区別なく攻撃するような抗癌剤には否定的だったのだ。一方、反丸山派は、効くかどうかは患者との相性次第という一面があった丸山ワクチンの不確実さをとらえ、「ただの水」とさえ酷評した。これに対し「丸山ワクチンの製造認可の促進を請願する患者家族の会」を軸とするワクチン支持派は、四万人にのぼる請願署名を厚生省に提出し、認可を強く働きかけた。

だが、厚生省中央薬事審議会は抗癌剤として丸山ワクチンの不認可を決定した（五六年）。ただし研究名目での供給継続は認めるという変則的なものだった。「厚生省も学会主流派も、その時点でワクチン使用中の三万人以上もの患者を無視できなかったのです。もし丸山ワクチンが『ただの水』なら、後にワクチンの成分濃縮液が癌治療の副作用抑制剤として認可される（平成三年）こともなかったはずです」と井口氏は語る。

逆風の中、「効果のあるかぎり、使用する患者は減らない」と信念を語り続けた丸山は、平成四年三月六日に世を去ったが、その言葉どおり丸山ワクチンへの支持は衰えず、累積使用者数は三〇万人を超え、今なおふえ続けている。

▲博士の一日は、朝6時の起床に始まり夜12時の就寝で終わる。健康管理は夏夫人の役目。文京区の自宅でくつろぐ丸山夫妻。 野上透

決定的瞬間

巨星・毛沢東死去！天安門広場を埋めた一〇〇万人の〝人の海〟

一九七六年九月九日、中国の巨星・毛沢東が世を去った。八二年の生涯だった。

毛沢東が亡くなった頃、舞台裏では「四人組」と反文革派との最後の暗闘が繰り広げられていた。文革の矛盾は、中国人民に数々の苦悩を強いていた。

しかし、新華社と北京放送が毛沢東の死を伝えると、北京では、一瞬のうちに天安門をはじめ、市中の建物や民家に半旗が掲げられ、深い悲しみに包まれた。

遺体は一一日から一七日まで人民大会堂に安置され、中国共産党、政府各機関の幹部らが次々と弔問に現れ、「偉大な領袖、導きの師」に最後の別れを告げた。

追悼大会が開かれたのは九日後の九月一八日。高曇りのこの日、午前九時、天安門広場に通じる東西の長安街の交通がストップ、放水車と清掃車で道路が清掃され、午前一〇時頃から大会会場に向かう人々の列は長時間とぎれることがなかった。会場となった天安門広場は、一〇〇万人の人々で埋めつくされた。参加者たちは、いずれも腕に喪章、胸に白い造花をつけ、整然と隊列を組み、会場へと向かった。

午後三時、それまで掲げられていた「毛主席、長生きしてください」と書かれた看板がはずされ、追悼大会が始まった。三分間の黙祷が行われ、その間市中の工場や列車などの汽笛が一斉に鳴り響き、テレビ放送もこの空前のセレモニーを克明に映し出し、全国に流し続けた。

大会は華国鋒首相の追悼演説が終わると、全員が天安門上の毛沢東の遺影に三回礼拝。三〇分という短い時間で終了、解放軍兵士を先頭に一〇〇万人の参加者たちが広場を去っていった。

現在はフリーカメラマンで、当時、毎日新聞社写真部長だった中西浩氏は、写真記者六人で訪中団を組織して、中国へ行った時、毛沢東の死に遭遇した。

当日、追悼大会への参加は許されなかったが、中西氏は天安門広場を一望できる北京飯店の新館一六階からこの光景をカメラにおさめた。

「世界の巨人、中国の偉大な力を思い知らされました。一ヵ所に集まったとはいえ、一目で見渡すことができない。海水浴の人出でも湘南海岸全部合わせて一〇〇万人くらいですよ。後日、一枚の画面に人間が最も多く写った写真、と言われましたが、その数の脅威だけでなく、動員力、統率力、不気味さなどさまざまな言葉が浮かんできました。解散の時の人の流れも、悲しみを力に変えた巨大な人民の河が堰を切って流れ始めた感じで、圧倒的な迫力でした」と、その強烈な印象を語っている。

この写真は、アムステルダムの世界報道写真コンテストのニュース・フィーチャー部門で一位に選ばれた。

いずれにせよ、この追悼大会はひとつの時代の終わりと新しい時代を予兆させる歴史的な大イベントであった。

▲1976年9月9日、毛沢東死去。それから9日後の9月18日、追悼大会が開かれ、会場になった天安門広場は、100万人におよぶ人、人、人、の波で埋めつくされた。中西浩

長野県南木曽町の集落、妻籠。旧中山道宿駅の面影を残し、多くの観光客を集めている。昭和43年から県の明治100年記念事業として、保存工事が行われた。 三沢博昭

岐阜県白川村荻町。合掌造りの家が今も残されている。 三沢博昭

美の出会い

きっかけは農村の過疎化 木曽・妻籠宿から始まった「美しい町並みを残そう！」

日本経済の成長期、人口の都市集中が加速され、農村の過疎化は深刻な問題となった。

長野県木曽の妻籠では、昭和四〇年代に空き家が目立つようになってきた。人が住まなくなると、家はたちまち荒廃する。ほかの多くの過疎地でも同様な問題をかかえ、その対策としては、まず工場誘致が考えられた。しかし妻籠では、古い宿場と自然を生かすべきだという方針がとられ、昭和四二年、旧脇本陣が町営の郷土館となる。

現在、「(財)妻籠を愛する会」の副理事長をしている南木曽町在住の小林俊彦氏は、当時の模様を次のように回想する。

「日本の農村だとか自然の風景を残さなければいけないのではないかという思いが強かった。あの頃は、ボロボロになってゆく農家や宿場などには、誰も価値を認めるものはいなかったのです。役所も建築家もみな見向きもしませんでした。そこで、私たちは住民を説得し、協力を得て、明治一〇〇年を期に、郷土館の文化財指定を長野県に申請しました」

一方、都市部では、また別の問題が起こっていた。しっとりと落ち着いたお茶屋の町である京都・祇園新橋には、昭和四八年、四階建てビルの建設計画が持ちあがった。景観の破壊を避けるのか、経済的利害を優先させるのか。住民が景観の保存決定に持ちこむまでには、紆余曲折があった。

このように一部地域で、町並みの保存、活性化をはかる有志が現れ、住民運動が展開されていった。経済環境や社会環境の変化、およびこれら住民の強い意志を受けた国は、前年の昭和五〇年に文化財保護法を改正し、「伝統的建造物群保存地区」の制度を定めた。そしてこの年の七月二三日、文化財保護審議会は、重要伝統的建造物群保存地区として、次の七地区を選定した。

秋田県角館町（武家町）
長野県南木曽町妻籠宿（宿場町）
岐阜県白川村荻町（山村集落）
京都府京都市産寧坂（門前町）
京都府京都市祇園新橋（茶屋町）
山口県萩市堀内地区（武家町）
山口県萩市平安古地区（武家町）

妻籠の住民運動は、その後の各地の町並み保存の先駆けとなり、大きな輪を生み出していった。以後、町並み保存の主体はあくまでも住民であり、行政がこれを認知し援助するという形ができていったのである。

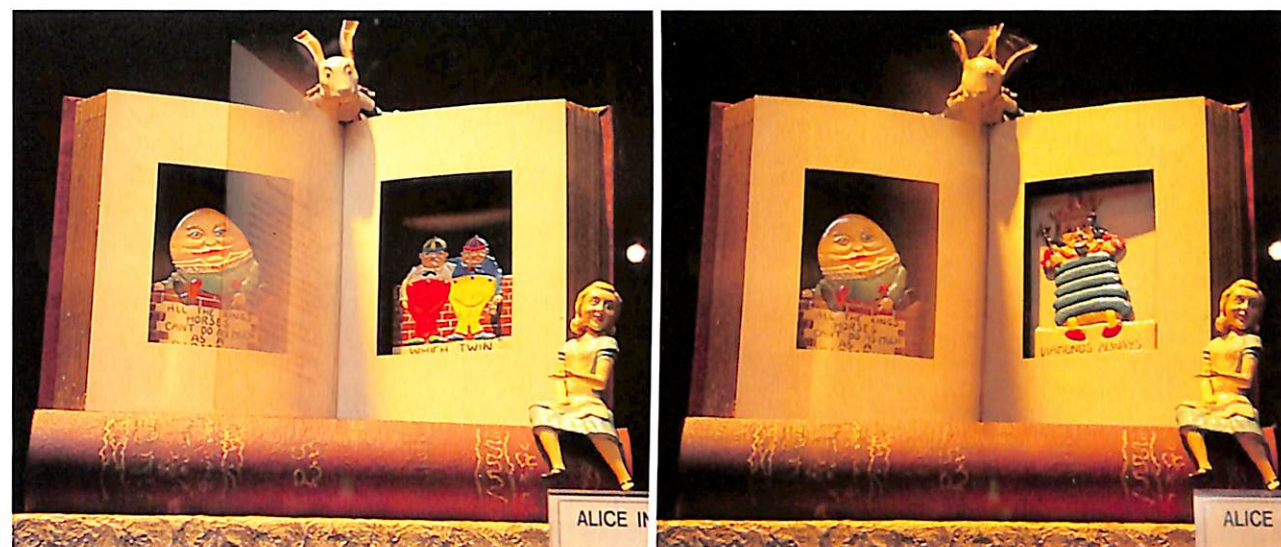
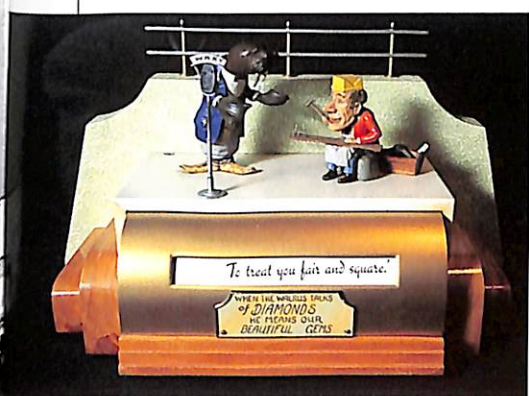
平成八年一二月一〇日現在、重要伝統的建造物群保存地区は、四九市町村四四地区に達している。順調に指定区域が広がっているようにも見えるが、実際は経済活動が優先され、多くの地域が今も消えつつあるのが現状である

20世紀博物館

機械じかけのおもちゃ館

ここは"不思議の国"、電気で動くアリスがいた

神奈川・横浜市

桑原茂夫

▲ページを左から右にめくるとハンプティ・ダンプティが現れ（左）、右から左にめくると王様が現れる（右）。

▲セイウチと大工の演奏会。アリス物語では残酷な連中として登場する。

「機械じかけのおもちゃ」と言っても、ぜんまい仕掛けではなく、電気仕掛けである。したがって、一定の動きを飽くことなく繰り返す。

それもそのはずで、ここに展示されている七〇点ほどの作品は、一九二〇年代から五〇年代にかけて、アメリカ各地の宝石店や時計店でウインドーディスプレイとして用いられたもの。道行く人の目を少しでも引きつけるために、動き続けなければならなかったのである。

なお、ここでは、ずっと動かし続けるのはメンテナンスの面からもむずかしいが、一定の時間をおいて動かし、当時の雰囲気を伝えようとしている。休日ともなると、動き出した作品の前には何重にも人垣ができるというから、当時の人気のほども推測できようというものだ。

作品のテーマとして、宝石や時計にちなんだものが多いのは当然で、「このダイヤモンドがあなたのものに」といった調子のコピーもつけて、客を招き寄せようという寸法だが、よく知られたキャラクターを使って、とにかく人目を引く算段をしているものも少なくない。

アリス好きのアメリカ人

その種のもので目立つのが『不思議の国のアリス』などのアリス物語に題材をとったもの。アリスの本そのものが仕掛け本になっている（上の写真）のをはじめとして、アリスの見た裁判風景や、アリスを煙に巻くハンプティ・ダンプティ、物語中の挿話に登場するセイウチと大工（展示説明に、これがアリス物語の一シーンのパロディだということが書かれていないのは残念だったが）などが、仕掛けになっているのだ。

それにしても、イギリスで誕生したファンタジーが、アメリカで、ウインドーディスプレイに使われるほど人気があったというのは、ちょっと驚きである。

そういえば、『不思議の国のアリス』のモデルでもあり、この話を作者ルイス・キャロルから直接聞いたばかりか、自分だけの本まで作ってもらった、アリスその人（一八五二～一九三四）が八〇歳になった時、名誉学位を授けたのはアメリカの大学だったし、その時、熱狂的に歓迎したのもアメリカ人たちだった。これは一九三〇年代初めのことだったが、やがて一九五一年にはウオルト・ディズニーがアニメ「ふしぎの国のアリス」を製作するなど、アメリカでのアリス人気は相当なもので、人目を引く必要のあるウインドーディスプレイの題材としては、格好のものだったわけだ。

ところで、これら機械仕掛けの作品群は、ブリキのおもちゃのコレクターとして知る人ぞ知る、北原照久さん（昭和二三年生まれ）のコレクションであり、北原さんみずから、このおもちゃ館の館長となって運営にたずさわっている。まさにここは、もうひとつの北原流「不思議の国」だったのである。

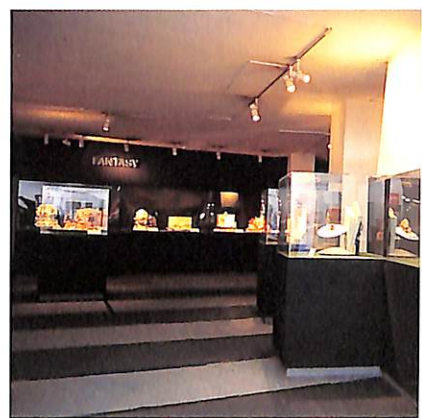
平野美津子

▲時計の機械部分が、ネズミとともに動く。

▲館内正面奥に、ハンプティ・ダンプティが。

●機械じかけのおもちゃ館
神奈川県横浜市中区山下町一五
マリンタワー三階
☎〇四五―六四一―一五九五
JR根岸線関内駅・石川町駅下車、徒歩一五分
開館時間＝一〇時～一九時（季節により変更）
休館日＝年に七日間（不定期）

戦後最大の"サービス"革命 宅急便「クロネコ」街を走る!

▲配送センターには「クロネコ」がいっぱい。「クール宅急便」は昭和63年にスタート。小荷物のうち食品が多くを占めることから発想された冷蔵庫つきトラックだ。 ヤマト運輸提供

クロネコ親子のシンボルマークをつけ、「宅配便」市場に乗り出した大和運輸（現・ヤマト運輸）。消費社会の成熟を見越した「電話一本でドアからドアへ」の先見力はみごと消費者ニーズにマッチ。"戦後最大のサービス業"とまで賞賛される消費者物流の一大革命となった。

「初日の二個」から六億個までの道のり

昭和五一年一月二〇日、関東一都六県の区・市内を営業区域に「クロネコ」が街を走り出したが、その道はけわしく初日の取扱個数はたったの二個、市民生活の変化を先取りしたはずの「宅急便」の車内は何ともさみしいものであった。

しかしその後、二月の月間合計が約八六〇〇個と急伸、初年度の年間取扱個数は一七〇万七〇〇〇個と驚異的な数字を示し、たちまちのうちに評判が評判を呼んでいった。

「初日の二個という数字に対してショックはありませんでしたね。何しろそれまではゼロだったですからね。かならず個人の荷物はあるだろうということはすでに研究ずみ。宣伝費がまったくなかったといっていい状況の中で、三月からは通販事業者やジャルパックなど、小荷物を扱うところへのセールス、比較的安かった地下鉄への吊り広告、社内でも手書きでガリ版刷りのチラシを作り、営業所に送って、配達する時に各家庭に配るなど、全社あげての"増送運動"を展開しました。その結果、口コミで宅急便サービスがどんどん広がっていったのです」

戦後最大の"サービス"革命
宅急便「クロネコ」街を走る！

▲支店長を集め、宅急便の輸送システム、サービス革命について説明する当時の小倉昌男社長。 ヤマト運輸提供

▼宣伝費がなく、ガリ版刷りで作られたパンフレット。 ヤマト運輸提供

当時関東支社宅急便センター長で、現在はヤマト運輸厚生年金基金の常務理事・堀江基好氏は二一年前をこう語る。

その後の急成長はすさまじかった。取扱個数は倍々ゲームで増加、五二年度には一〇〇〇万個、五八年度に一億個、平成七年度には六億個を突破。取扱店は当初の四五〇〇店から、平成七年度には二八万四〇〇〇店と、"点から面へ"と営業エリアが全国に広がっていく。

ちなみに、「客から預った荷物を大切に運ぶ」ことの象徴として親子のクロネコマークを使い始めたのは昭和三二年六月、アメリカのアライド・ヴァン・ラインズ社のマークをアレンジして使う許可を取り付けてからだ。

大衆消費社会到来を先取りした先見性

昭和四六年、四七歳で父親の後を継ぎ社長に就任した小倉昌男氏にとって、宅配便への参入は夢でもあり背水の陣を敷いた勇断でもあった。

社長就任以来、小倉氏は研究を重ね、アメリカへも何度も足を運び成功ノウハウを分析、その中でも、ラーメンやカツ丼は扱わず、ひとつのメニューに絞りこんだ「牛丼の吉野家」からヒントを得て取り扱い対象を絞ったのはまさに画期的な発想であった。コストを下げ、作業能率を高めるためには、荷物の大きさと重さを統一すればいい。そこで生まれたのがLサイズとMサイズの規格であり、輸送先をブロックごとに分けて一律の価格を設定することだった。

組合の幹部まで含めた特別委員会での慎重な討議が繰り返されたのは四八年から四九年にかけてのこと。もちろん社内には反対も多かった。大口荷物のうま味を捨てきれないからだ。しかし、東京・中野区での調査では一世帯から出る小荷物が平均で年間一個か二個、総数で約五〇〇〇万個。ノウハウ次第では、鉄道貨物や郵便小包に十分対抗できるマーケットであった。

「大衆消費社会へ動こうとしている時、運送業にはそれに応じた商品システムがない。小口荷物は鉄道と郵便局の運送だけで、そのサービスの質は日本中が知っている。この市場はほぼ手つかずの、はかりしれない可能性が待っている」

小倉社長のねらいはみごとに的中。一方では、「二兎を追う者は一兎をも得ず」と、これまでの大口取引先だった松下電器やソニー、三越などとの商業貨物を切り捨て、全社一丸で宅急便に取り組む態勢を築き上げていったのである。

「実は宅急便は、"運送業の体質改善"ではなく"消費サービス革命"だったんですよ。社内では、その後もハード、ソフト、ヒューマンの側面から『サービスとは一体何か』を、とことん追求していきました」と、堀江氏は言う。

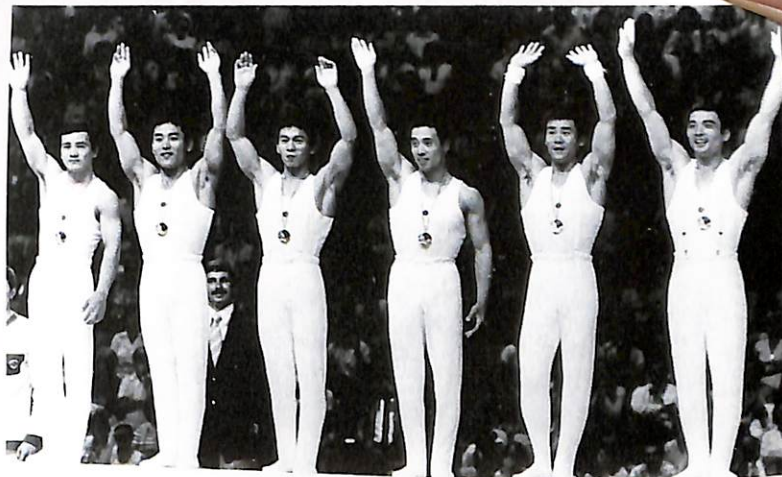
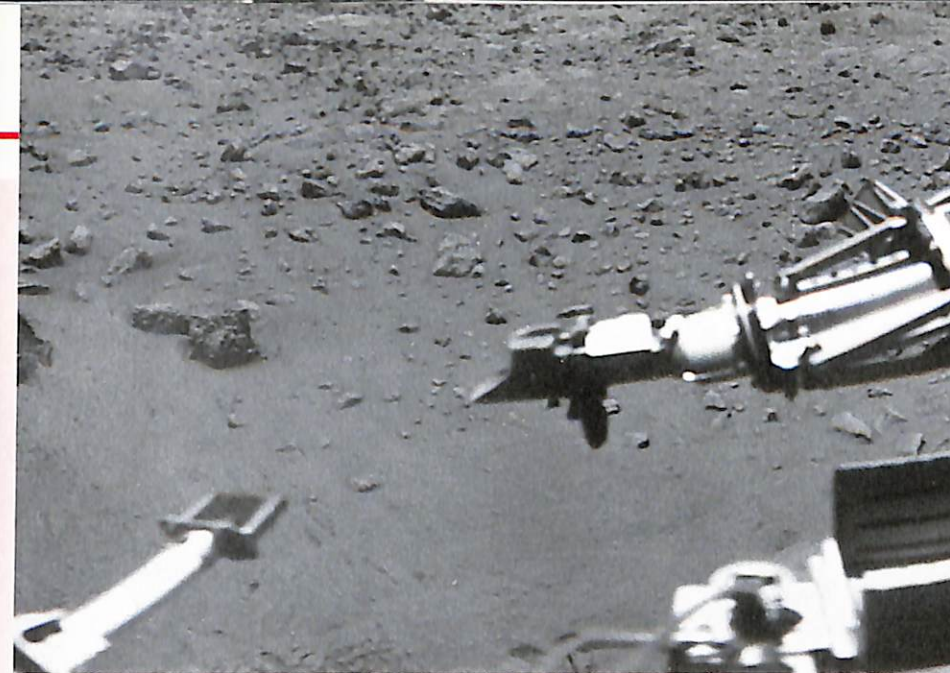
事実、昭和五二年六月には「女子戦力拡大プロジェクト・チーム」を結成、セールス・ドライバーにはサービス業としての言葉づかいやマナーを養ってもらうなど、これまでの運送業のあり方だけではなく、社員一人一人の意識革命までをも引き起こす。

同時に、トラックと配送基地を結ぶ高効率輸送システム、無線を使った集荷指令システム、荷物の現在地を常時管理するコンピュータシステムなどのハード面を充実させながら、「スキー宅急便」「ゴルフ宅急便」「クール宅急便」「タイムサービス」といった生活に密着した潜在的な消費者ニーズを掘り起こしていったのである

▲魚屋も取次店。「クール宅急便」の誕生で新鮮さもそのまま全国配送。 ヤマト運輸提供

フォト＋日録で再現する366日

WWP

▲アメリカ建国200年祭（7月4日）独立宣言の地フィラデルフィアをはじめ各地で自由の鐘の音と祝砲が響き、ニューヨークの記念大帆走会（写真）には日本から帆船「日本丸」が参加した。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲米国の「バイキング1号」火星に軟着陸（7月20日）クリュセ平原上に着陸船をおろして長期観測態勢を敷き、土壌分析、気象観測を行った。また、火星表面の撮影に初めて成功した（写真）。

毎日新聞社

◀ビルのすき間に女性（7月18日）夜11時近く大阪市南区で宙吊りになっているところを発見。消防署がビルの壁を破って救出した。女性はサロンホステスで、酔っていてドアと窓を間違えたという。

▼SL、大井川鉄道で再出発（7月8日）前年秋に北海道の標津線を引退した蒸気機関車C11型で愛称「川根路号」。SL好きな観光客向けに客車3両を連結し静岡県の金谷―千頭間39.5キロを走った。

共同通信社

◀集中豪雨で南伊豆大被害（7月11日）朝から500ミリに近い豪雨が襲い、洪水や土砂崩れが相次いだ。写真は崖崩れで分断された国道135号線。死者は15人、観光客約8000人が足止めをくった。

共同通信社

▼モントリオール五輪で男子体操が5連覇（7月20日）エース・笠松が欠場したが、自由演技でウルトラCを連発、ソ連を逆転した。表彰台の左から梶山、監物、五十嵐、加藤、藤本、塚原。

1

時事通信社

昭和51年7月

1（木）●日本など五ヵ国、国際捕鯨委の翌年度捕鯨枠に合意。日本は二五㌫削減。

2（金）●鳴門市で本四連絡橋大鳴戸橋の起工式を挙行。
●ベトナム社会主義共和国が成立。

3（土）●国民の六一㌫が現在の生活に「満足」と回答、と内閣広報室が世論調査結果を発表。

4（日）●二〇〇回目の米独立記念日。

5（月）●芥川賞に村上龍「限りなく透明に近いブルー」。

6（火）●富士山頂で降雪（6月以来、異常低温）。

7（水）●新日鉄堺製鉄所から潤滑油一二㌔㍑が流出。

8（木）●ロッキード事件で若狭得治全日空社長逮捕。

9（金）●郵政省、情報処理業者による電電公社のデータ通信回線使用制限を大幅に緩和。

10（土）●新しい日本を考える会（会長・松前重義）設立。

11（日）●伊豆半島を中心に集中豪雨。一五人死亡。

12（月）●女性弁護士一〇二人、司法研修所教官らの女性修習生への侮蔑発言に対し質問状を提出。

13（火）●仙台高裁、弘前大教授夫人殺害事件（24年8月）で、那須隆元被告の再審を決定。

14（水）●警察庁が関東大震災級地震を想定し防災訓練。

15（木）●岡山県の楯築墳丘墓の発掘が開始される。

16（金）●福岡市で右翼団体員が電話局を脅迫し職員を監禁。警察官到着後にガス爆発で犯人死亡。

17（土）●モントリオール五輪開幕。アフリカは不参加。

18（日）●仏への留学生が語学教師らを殺害し自殺。

19（月）●東日本医科学生体連、防衛医大の参加を拒否。

20（火）●東京高裁、外務省公電漏洩事件（47年3月）で西山太吉元毎日新聞記者に有罪判決。
●米の無人探査機が火星に軟着陸。

21（水）●国鉄の不正乗車請求が六月以来二四五六万円。

22（木）●対フィリピン賠償に調印し、戦争賠償完了。

23（金）●文化財保護審、全国七ヵ所の「重要伝統的建造物群保存地区」を答申。

24（土）●大蔵省、苦情増加で保険会社への検査を強化。

25（日）●退職後の再就職は三割と春闘共闘委調査。

26（月）●防衛庁幹部と学者の防衛問題研究会が初会合。

27（火）●東京地検、ロ事件で田中角栄前首相を逮捕。

28（水）●中国の唐山で大地震、死者六五万人以上。

29（木）●シラク仏首相、来日（～8月1日）。

30（金）●日本共産党党大会、綱領から「プロレタリアート執権」削除、「自由と民主主義の宣言」採択。
●政府、佑・梓など二八字の人名漢字追加を告示。

31（土）●長野県佐久総合病院院長・若月俊一に、マグサイサイ賞地域社会活動部門賞授賞が決定。

▼神奈川県の丹沢で吊り橋落下（8月4日）林間学校に来ていた中学生ら約70人が7メートル下の河原に転落、39人が重軽傷を負った。原因はロープの留め具がはずれたため。

共同通信社

毎日新聞社

▲ロッキード灰色高官（8月19日）田中前首相の逮捕後、15人の名前が次々にあがった。写真は取材陣に「あかんベー」をする福永一臣自民党航空対策特別委員長。

証言・あの日この日
筒井康隆（42）

10月3日（日）〈最近公立の小学校の運動会というのは、競走はなく（走るのが遅い子に対する差別になるからだそうだ）、弁当もなく（なぜかこれも差別になるからやめろという母親がいるという）、午前中だけで終りだそうだ。棒のぼりをさせても、のぼれない子に対する差別だというので怒る母親がいるから、ほとんど何もできず、お座なりの運動会になってしまう〉（筒井康隆『腹立半分日記』）

公立小学校の運動会から競走種目が消えた正確な日付はわからないが、これはかなり早い段階での証言だろう。平等主義に名を借りた抑圧的な空気が、この頃から流れ始める。しかし筒井氏の子どもが通っていた小学校は私立で生徒数も少なかったから〈運動会らしい運動会〉だった。徒競走もあり、〈遅い子は最後まで力を抜かず走る。拍手が起る〉。

（坪内祐三）

▲新自由クラブ代表・河野洋平襲われる（8月28日）京都市役所前で街頭演説中、突然刃物を持った男が襲ったが、河野は体をかわし無事。政情不安にいらだった右翼の犯行だった。

◀首都高速湾岸線の東京港海底トンネル道路開業（8月12日）品川区大井埠頭と江東区の13号埋め立て地を結ぶ2.8キロで、途中1.3キロはコンクリートの箱を海底に沈める最新工法が採用された。

共同通信社

▼米・北朝鮮、板門店で乱闘（8月18日）現場は南北朝鮮の共同警備区域内。米軍将校二人が死亡、米軍・韓国軍将校9人が重軽傷を負った。このため朝鮮半島は一時的に異常な緊張状態におちいった。

共同通信社

毎日新聞社

昭和51年8月

1（日）●熊本市に心身障害者用「福祉タクシー」が登場。

2（月）●田中前首相秘書、埼玉県山中で自殺体で発見。

3（火）●群馬県本白根山で高崎女子高生ら三〇人が、自然噴出の硫化水素でガス中毒（三人死亡）。

4（水）●神奈川県の檜洞沢で吊り橋落下。三九人負傷。

5（木）●札幌高裁、長沼ナイキ基地訴訟で自衛隊違憲の原判決を取り消し、住民敗訴の判決。
●筑豊最後の大手炭鉱である貝島炭鉱が閉山。

6（金）●木村守江福島県知事、収賄容疑で逮捕。

7（土）●北海道の苫小牧東部大規模工業基地、着工。

8（日）●ミクロネシア議員、日赤長崎原爆病院で水爆実験による被爆島民のため医師派遣を要請。

9（月）●長崎の原爆式典に首相で初めて三木首相参列。

10（火）●厚生省、石田原爆訴訟の国敗訴受け入れを決定。原爆白内障を原爆症と認める。

11（水）●文部省、初の業者テスト全国調査結果を公表。六割の都道府県で正規授業時間に実施。

12（木）●首都高速の東京港海底トンネル道路が開業。

13（金）●米、日本車にダンピングの事実なしと結論。

14（土）●政府管掌健保が三一二億円赤字と厚生省発表。
●新潟県の白蓮洞で一一人行方不明（17日救出）。

15（日）●富士登山マラソン（駅伝）復活し第一回大会。

16（月）●福岡県芦屋町で竜巻発生。家屋三戸が全半壊。

17（火）●田中前首相、保釈金二億円で釈放される。

18（水）●ワシントンで日米漁業協定改定交渉始まる。

19（木）●反三木の自民六派、挙党体制確立協議会結成。
●大分県湯布院町で第一回湯布院映画祭開催。

20（金）●ロ事件で佐藤孝行（21日、橋本登美三郎）逮捕。

21（土）●甲子園で桜美林高がPL高を破って優勝。東京代表の優勝は六〇年ぶり。

22（日）●全国音楽家労働組合共闘会議が結成される。

23（月）●東京で安楽死国際会議開催（～24日）。
●国土庁、都心からの大学移転促進計画発表。

24（火）●プロ野球で野村克也が初の五〇〇〇塁打達成。

25（水）●自家用車の普及は二世帯に一台、と運輸省。
●「ペッパー警部」でピンク・レディーがデビュー

26（木）●建設下請け額は一五㌫減と建設業団体連調査。

27（金）●日本輸出入銀行とイラン、石化コンビナート建設への八八八億円の円借款供与契約に調印

28（土）●女性団体や消費者団体など百五十余団体が「企業秘密漏泄罪を許さない連絡会」結成。

29（日）●男子離職者が一〇年ぶりに就職者を超える。

30（月）●札幌市で自治体主催の北方領土返還要求大会

31（火）●国鉄、累積赤字は三兆一六一〇億円と発表

▲尺貫法復活を主張の永六輔(9月25日)メートル法の採用で、曲尺や鯨尺の物差し不足を知った永が、物差し3000本を売り(写真)自首したが、警察は「ショー」として逮捕しなかった。

▲台風17号、1000ミリ超す豪雨(9月12日) 14日までに全国で死者と行方不明が167人、浸水家屋52万戸の被害が出た。この日、岐阜県長良川の堤防が決壊(写真)、流域の5つの町が水没した。

▶冷害深刻な東北を視察(9月25日)青立ちの目立つ水田を見てまわった大石農相(右)は、被害のひどさにビックリ。実のない稲束を見せながら、涙で訴える農家の主婦を慰労した。

▲61年ぶりに実った無実の訴え(9月18日)大正4年、山口県で起きた強盗殺人の犯人として服役した加藤新一さん(中央)の申し立てに、広島高裁は新証拠を採用し、再審開始を決めた。

▲回漕中の大型タンカー真っ二つ(9月11日)台風の余波で大しけとなった豊後水道で、5万2000トンの「菱洋丸」がV字に折れて浸水した。原因は、船の設計ミスや老朽化が指摘された。

▶魁傑、2度目の優勝(9月25日)大相撲秋場所の14日目、前頭四枚目の魁傑は、高見山をすくい投げで破り、史上18人目の平幕優勝を決めた。千秋楽には鷲羽山に勝ち、敢闘賞も受賞した。

昭和51年9月

1(水)●神奈川県、「薬の一一〇番」を開設。
●東京に日本プレスセンタービルが完成。
2(木)●警視庁が精励章設定。派出所二〇年勤務など。
3(金)●NHK、田中前首相を保釈後に訪問した小野会長の辞表を受理(21日、後任に坂本朝一)。
●相撲協会、評議員は日本国籍が条件と決定。
4(土)●東海道線京阪間開通百周年のSL記念運行にファン殺到。茨木駅で児童がはねられ死亡。
5(日)●元特攻隊員が軽飛行機での太平洋横断に出発。
6(月)●ソ連のミグ25戦闘機が函館空港に強行着陸(乗員のベレンコ中尉は9日に米へ亡命)。
●環境庁の近海調査で対象全域からPCB検出。
7(火)●横浜市でプロパン爆発。児童ら二七人負傷。
8(水)●大和市住民が厚木基地騒音差し止めを提訴。
9(木)●日本ビクター、VHSビデオを発売と発表。
●毛沢東中国共産党主席、死去。
10(金)●長寿番付発表。一〇〇歳以上は六六六人。
11(土)●宮沢外相、現職外相では初めて北方領土視察。
●農林省、北海道・東北に「冷害宣言」を出す。
12(日)●台風一七号の豪雨で長良川の堤防が決壊。
13(月)●将棋連盟、名人戦を今期から毎日新聞に変更。
14(火)●六五歳以上の高齢者は八%を超えると総理府。
15(水)●三木改造内閣発足。福田副総理ら留任。
16(木)●ブラジルとのアルミ精錬合弁事業決定し調印。
17(金)●警視庁、暴走族摘発で一五八人を逮捕・補導。
18(土)●広島高裁、大正四年の強盗殺人事件で、加藤新一元被告の再審請求を認める。
●厚生省、種痘の定期接種廃止を全国に通達。
19(日)●日本三曲協会がベネチア救済演奏会を開催。
20(月)●運輸省労組が『航空黒書』。羽田老朽化を指摘。
21(火)●世田谷区が公立で初めて保父採用と新聞に。
22(水)●水俣病刑事裁判の初公判、熊本地裁で開廷。吉岡チッソ元社長ら、起訴事実を全面否認。
23(木)●NET(現・テレビ朝日)の番組で実施の手話通訳は、小さくて見づらいと新聞に。
24(金)●三木首相、国会の口事件究明に協力を表明。
25(土)●大島渚「愛のコリーダ」をベルギー警察が押収。
26(日)●日光の霧降高原有料道路が開業。
27(月)●新潟沖に大陸棚油田開発プラットホーム完成。
28(火)●三浦市にヨット・モーターボート税新設認可。
●消費の個性化が進んでいると『国民生活白書』。
29(水)●川崎市、全国初の環境アセスメント条例制定。
30(木)●最高裁、インフルエンザ予防接種による幼児の死亡に医師の過失を認める判決。

▲日本赤軍の奥平純三、強制送還(10月13日)ハーグ事件、クアラルンプール事件の犯人としてヨルダンで拘束・送還された。拘置所内で自殺した日高敏彦は、遺体で送還された。

▼日本で初のF1選手権シリーズ(10月24日)静岡県の富士スピードウェイにファン7万人が詰めかけた。雨と霧の中での最終戦は、英国人マリオ・アンドレッティが逆転優勝した。

▲酒田市で大火(10月29日)映画館のボイラー室から出火し、強風にあおられて中心部の1774棟を全焼。死者一人、被災者は3700人、焼失面積は戦後4番目の23ヘクタールになった。

▲長嶋巨人、初優勝(10月16日)広島球場で行われた最終戦で、広島を5対3の逆転で破り、監督就任2年目でセリーグ優勝を決めた。写真は前年最下位の屈辱を晴らし、笑顔で胴上げされる長嶋監督。

▶宇都宮徳馬、突然辞意表明(10月12日)ロッキード事件や金大中事件に対する自民党の対応への不満から、「政治家としてけじめをつけたい」と議員辞職の手続きをとった。28日に受理された。

昭和51年10月

1(金)●閣議、第三次空港整備五ヵ年計画を決定。
2(土)●北海道・山形県・徳島県の医師会が予防接種を拒否(5日、日本医師会が再開を決定)。
3(日)●八ヶ岳山麓にヤスデが大量発生。小海線を一〇キロにわたり埋めつくし、列車が一部運休。
4(月)●新たに四九市が赤字転落、と全国市長会発表。
5(火)●新日鉄大分製鉄所で世界最大の二号高炉始業。
6(水)●中国で江青ら「四人組」逮捕(12日公表)。
7(木)●結婚費用は平均二八五万円と三和銀行。
8(金)●原子力委、放射性廃棄物の処分方針を決定。
9(土)●司法試験の合格者発表。四六五人のうち女性は三九人で過去最高。
10(日)●具志堅用高、WBA世界J・フライ級王座に。
11(月)●流山市で常磐自動車道に反対する住民が道路公団の大気汚染測定を妨害。
12(火)●宇都宮徳馬、ロッキード事件など腐敗体質を理由に議員辞職願を提出(28日、辞職)。
13(水)●最高裁、財田川事件(25年)で再審を決定。
14(木)●北海道の様似漁協、ソ連大型漁船による漁具被害を避けるため無期限休漁に入る。
15(金)●大蔵省、各省庁に行政経費の五%節減を要請。
16(土)●選挙人登録数発表。参院は格差五・二五倍。
17(日)●バレーボール協会、ソ連と交流強化で合意。
18(月)●新幹線の防音壁が振動を促進と建築学会報告。
19(火)●全林野労組、自動のこぎり使用による白蝋病多発を傷害として林野庁前・現長官を告発。
20(水)●日本点字図書館が開発した盲人専用のカセットテープレコーダー一号機が同館に届く。
21(木)●青森県で強風のためリンゴの一一%が落下。
22(金)●判事補・鬼頭史郎が口事件で検事総長の名を騙り三木首相に二セ電話していたと発覚。
23(土)●歯科医師会、無請求でも領収書出す方針決定。
24(日)●米建国二〇〇年記念のニューヨーク・シティー・マラソンでゴーマン美智子優勝。
25(月)●旧日本軍関係者と連合軍捕虜、現地住民がタイのクワイ河橋で三三年ぶりに再会。
26(火)●土光経団連会長、ECへ輸出規制必要と表明。
27(水)●四八年火災起こした熊本の大洋デパート倒産。
28(木)●総務長官、「昭和」後も元号制度存続と表明。
29(金)●酒田市中心部で一七七四棟を焼く大火。
30(土)●佐々木元運輸相、次期衆院選の立候補辞退の意向と判明。「灰色高官」では初めて。
31(日)●東芝・日立・三菱重工、ウラン濃縮工場建設のための合弁会社設立で合意。

◀**田中角栄、お国入り(11月14日)**8月に保釈されてから去就が注目されていたが、衆院選公示日前日の14日に新潟3区に帰り、13年ぶりに選挙運動を開始した。選挙では十六万余票でトップ当選した。写真は、後援会の越山会員を前に選挙演説する田中。

毎日新聞社

▼**カーター、米大統領に当選(11月3日)**地元ジョージア州などの南部で圧勝、東部でも順調に票を伸ばし、共和党現職のフォードを破り、大統領就任を決めた。写真は選挙本部で支持者にこたえるカーターと家族。

共同通信社

毎日新聞社

◀**「朝日」、発売から73年で姿消す(12月)**明治37年に「敷島」「大和」「山桜」とともに売り出された。当時は高級品で20本入り6銭。昭和4年の最盛期には125億本と売り上げトップを記録したが、昭和40年代になって不振のため、12月いっぱいで生産中止が決まった。

共同通信社

▲**天皇在位50年式典(11月10日)**日本武道館で政府主催の記念式典が開かれ、天皇は戦争の犠牲者に対し、哀悼の念を表明。各地でちょうちん行列などが行われた。

▶**アグネス・ラム来日(11月12日)**この年の夏、9本のCMや雑誌、ポスターに登場して若者のアイドルになった。羽田空港での記者会見には多数の報道陣が押し寄せた。

◀**南極観測船「ふじ」出発(11月25日)**楠宏を隊長とする第18次観測隊員40人を乗せ、東京・晴海を出港、昭和基地へ向かった。

共同通信社

共同通信社

昭和51年11月

1(月)●国鉄、合理化でみどりの窓口の営業時間短縮。
2(火)●法務省、ロ事件の「灰色高官」中五人を公表。
3(水)●米大統領に民主党のジミー・カーター当選。
4(木)●東京で一万人が日本の漁業を守る総決起集会。
5(金)●政府、防衛費を対GNP比一㌫以内と決定。防衛費枠を初めて設定。
6(土)●国鉄、旅客運賃平均五〇・四㌫の大幅値上げ。
7(日)●防衛庁制服組に新三矢計画の動きと新聞に。
8(月)●三菱自工、欧州での現地生産凍結を発表。●家永三郎ら歴史学者三千余人が元号反対声明。
9(火)●埼玉県にゴルフ場建設と称し、一万人から九五億円集めた大日本ゴルファーズ協会が倒産。
10(水)●天皇在位五〇年記念式典を開催。
11(木)●体操のコマネチが来日。羽田はファンで混乱。
12(金)●藤沢市に東急ハンズ一号店が開店。●日本と欧州石炭鉄鋼共同体、EC向け鉄鋼輸出カルテルの一年延長で規制問題に合意。
13(土)●角川映画の第一作「犬神家の一族」封切。●二〇〇〇人集まりアグネス・ラムのサイン会。
14(日)●救急患者の二・四㌫が病院転送と消防庁発表。
15(月)●日照権侵害を規制する建築基準法改正を公布。
16(火)●農林省、五一年度下期の牛肉輸入を半減する。
17(水)●市内電話料金値上げ。一度数七円を一〇円に。●東京都教育委員会、中学生五六㌫、小学生二四㌫が学習塾に通う、と調査結果を発表。
18(木)●国大協、五四年度に共通一次試験導入と結論。●警視庁、国鉄八高線の車内で乗客を締め出して喫煙していた、高校生九四人を補導。
19(金)●経団連、役職者は自民党へ個人献金と決定。
20(土)●司法研修所に初の女性教官・寺沢光子を起用。
21(日)●対馬沖でソ連の潜水母艦がF級潜水艦を曳航。
22(月)●産業廃棄物を積み各地で陸揚げを拒否され、六四日間回航した「高共丸」が東京港へ入港。●日本テレビの「君は明日を掴めるか」が日本作品では初めて国際エミー賞を受賞。
23(火)●九月までの書籍発行の二八㌫が漫画と新聞に。
24(水)●東洋バルヴ倒産。負債八四〇億円で戦後二位。
25(木)●運輸省、不況の造船四〇社に操業短縮勧告。
26(金)●可処分所得が六ヵ月連続減少、と総理府調査。
27(土)●東京税関、覚醒剤密輸の香港ルート九人逮捕。
28(日)●総選挙法定費用は前回の三倍に上昇と新聞に。
29(月)●ゼリア新薬工業、丸山千里が開発した制癌剤丸山ワクチンの新薬認可を厚生省に申請。
30(火)●EC首脳会議、対日貿易不均衡是正を宣言。

共同通信社

毎日新聞社

▲**記念硬貨求めマニアの列(12月23日)**天皇在位50年記念の百円硬貨の引き換えが、全国一斉に始まった。東京中央郵便局には、午前9時の開局を前に900人が並び(写真)、用意された2万8950枚は午前中でなくなった。

共同通信社

▼**ねむの木学園作品展(12月16日)**東京・渋谷の東急百貨店本店で、障害を持つ子どもが、園長の宮城まり子(中央)や画家・谷内六郎らとの交流から生み出した、約200点の作品が展示された。

▲**過熱、ジャンボ宝くじ(12月21日)**1000万円が40本あたるという大型のため各地で群衆が殺到。後楽園の特設売場には一万人余が集まり、機動隊が出動(写真)、全国で死者二人、25人が重軽傷を負った。

望月誠

▲**200カイリ時代到来(12月13日)**ワシントンで日米漁業交渉が始まったが(写真)、各国の専管水域設定宣言で、日本は大きな打撃を受けた。

◀**雑居ビルで火災(12月26日)**沼津市繁華街の酒場から出火し、客やホステス15人が有毒炎にまかれて焼死した。原因は客の放火だった。

毎日新聞社

昭和51年12月

1(水)●シャープ、初めて太陽電池内蔵の電卓を発売。
2(木)●日航乗員組合、新乗員計画に反対しスト突入。
3(金)●環境庁、トキの保護で人工繁殖推進を決定。
4(土)●東京・錦糸町の雑居ビルで火災。六人死亡。
5(日)●第三四回総選挙(自民過半数割れ、公明躍進)。田中角栄は新潟三区でトップ当選。
6(月)●自民党、無所属議員八人を加え過半数を確保。
7(火)●三木首相、自民敗北の責任をとり辞任を表明。
8(水)●東京地検、小佐野賢治邸などを家宅捜索。
9(木)●防衛庁、次期主力戦闘機にF15を内定。●五一年の大学入学者は新制大学で初の減少。
10(金)●ソ連、二〇〇カイリ漁業専管水域設定を布告。
11(土)●岐阜県警、平野三郎知事を収賄容疑で送検。
12(日)●地方公営企業の四四㌫が赤字、と自治省発表。
13(月)●環境庁、「全国大気汚染状況」を発表。汚染の中心が硫黄酸化物から窒素酸化物へ変化。
14(火)●日経連、賃上げ率決定をガイドライン方式から、経済成長率を目安にすると発表。
15(水)●熊本地裁、水俣病認定のおくれを違法と判決。●横浜市議会、ペット(保護・管理)条例を可決。
16(木)●環境庁と運輸省、五三年度排ガス規制を発表。●中央児童福祉審、保父制度創設を厚相に答申。
17(金)●浜松市の東海道線工事現場で不発弾処理。
18(土)●教育課程審、授業内容の二五㌫削減など、小・中・高校教育課程の基準改善案を答申。●東京スモン訴訟原告団が和解か訴訟かで分裂。
19(日)●那覇市で、住民二〇〇〇人が暴力団追放大会。
20(月)●小企業の週休二日制の実施は、労働省調べで月一回を含め一割強、と新聞に。
21(火)●一等一〇〇〇万円のジャンボ宝くじ発売。●五一年産米は戦後五番目の不作、と閣議報告。
22(水)●厚木基地騒音公害訴訟、横浜地裁で開廷。
23(木)●天皇在位五〇年記念百円硬貨の引き換え開始。
24(金)●福田内閣発足。福田派と大平派を軸に組閣。
25(土)●東京行きエジプト航空機、バンコクの日系紡績工場に墜落。工員含め七一人が死亡。
26(日)●沼津市の雑居ビルで火災。一五人が焼死。
27(月)●山梨県の筋拘縮症児ら四九二人、国や製薬会社に六六億円の損害賠償を求め提訴。
28(火)●覚醒剤検挙者は前年比四〇㌫増と警察庁。
29(水)●伊藤忠商事と安宅産業、合併覚書に調印。
30(木)●労組員が二五年ぶり前年比減少と労働省発表。
31(金)●人口動態統計発表。離婚件数が史上最高に。●都はるみ「北の宿から」がレコード大賞受賞。

流行語
若者ウケしたマンガのギャグ

「ちょんわ、ちょんわ」。この時代には根なし草の若者がふえる一方、先輩後輩の規律を重んじる応援団にひかれる若者もふえ、それをテーマにしたマンガ『嗚呼!!花の応援団』は四〇〇万部という大ベストセラーになった。この言葉は主人公が体をくねらせながら発するもので、そのバカバカしい感じがウケた。このマンガはほかに「クエッ、クエッ」「役者やのう」といった流行語も生み出した。

「わかるかな? わっかんねえだろうなあ」。漫談家・松鶴家千とせの売り文句。ある時、刑務所慰問に行った千とせは、しゃべっているうちに「自分の芸が理解してもらえるだろうか」と不安になり、思わず「わかるかな? わっかんねえだろうなあ」とつぶやいた。これがバカウケしたので自分の売り文句にしたという。

「フィクサー」。戦後最大の汚職といわれたロッキード事件は証人喚問で乱発された「記憶にございません」など、いくつかの流行語を生んだ。「フィクサー」もそのひとつで、英語の俗語で黒幕、仕掛け人を意味し、児玉誉志夫の代名詞として使われた。

◀昭和51年10月、秋本治作「こちら葛飾区亀有公園前派出所」が、「週刊少年ジャンプ」で連載開始。

秋本治／集英社ジャンプコミックス

教育
ほとんど「南総里見八犬伝」珍しいクラスの呼び名

クラスの呼び名は「A組、B組、C組……」か「一組、二組、三組……」と呼ぶのが普通だが、山口・下関商業高校では仁、義、礼、智、和、敬、清、昭、浄、明がクラスの呼び名。

この学校は明治一七年創立という古い学校で、当初は甲、乙、丙、丁と呼んでいたが、明治三八年四月から組の名称を仁、義、礼、智、と改め、その後だんだんクラスがふえるにつれて和、敬、清、昭、浄、明が加わったという。

（「週刊平凡パンチ」五月三日号）

値上げ
さすが大阪、吸い殻の長さを比較すると

前年の一二月一八日、タバコが値上げとなったが、値上げ後、大阪ではタバコの吸い殻が短くなっていた。専売公社大阪たばこサービスセンターが、喫茶店、バーから吸い殻六四九五本を回収、一本ずつ測定したところ、値上げ前の調査と比べて一ミリ短い平均四三ミリ。ポイと捨てる前に、もったいなや、もう一服というのがこの結果。さすが大阪と公社も感心している。ちなみに全国三三〇〇万人の愛煙家がそれぞれ一ミリだけ余計に吸うと年に三〇億本分、公社にとって二二五億円の減収という計算になるそうだ。

（「週刊新潮」七月二九日号）

産業
ミミズ産業に“一獲千金”の夢

今、ミミズ産業が土地改良の“救世主”として脚光をあびているが、業者のひとつ、福島県の東駒がミミズ養殖者を募集、これが大変な人気を集めている。内容は養殖を希望する人が約一〇坪の土地を用意したうえ、会社に四五万円を送る。これに対して会社からは設備、種虫、栄養剤、それに養殖のノウハウを記したマニュアルが送られてくるというもので、これで準備OK。あとは養殖者が一万匹の種虫を一年間で二〇〇万匹にふやせば、それを会社が一二〇万円で買い取るというシステム。

これまで東駒には六五〇〇件の問い合わせがあり、そのうちの半分以上が福島県棚倉町の会社まできて実地見学、説明会に参加した。

（「週刊読売」一一月一七日号）

共同通信社

▲4月、東京・錦糸町にエスカレーターつき歩道橋が出現。

CM100年

▼前年からCMに本物の母親が登場し始め、人気を呼んだ。

データ
女性の生涯賃金調査 トップは教師、八九〇〇万

高卒OL（勤続四二年）＝五一八七万円。美容師（同四二年）＝六九八三万円。大卒OL（同三八年）＝七二五〇万円。看護婦（同四〇年）＝七六八三万円。教師（同三八年）＝八九一二万円。

（労働省五〇年度調査）

美女倶楽部　伴田良輔・選

モード雑誌から抜け出たような美女が、上半身を“見返り美人”ふうに、こちらに回転させている。目深にかぶった帽子と髪型が性的フォルムを連想させて妙にエロチックだ。単なる造形美を超えた個性的肉体。中村正也撮影。

三面記事
コンドームが決め手で逮捕

〔福岡発〕福岡県の筑豊地方で、金庫破りや事務所荒らしが相次いだ。といっても、スポーツカーで乗りつけ、バールみたいなものでいきなり錠をぶっこわすという荒っぽい手口。そのスポーツカーは何人にも目撃されていたから容疑者（二六）の目星はすぐについたが、逮捕するには決め手がない。

その決め手を警察がついにつかんだ。それはコンドームである。ある時、男はゴム製品会社の倉庫に侵入、コンドームを三ダース盗んで逃げたが、このコンドームがかなり特殊なモノだった。それからは刑事が男をべったりマークし、女とモーテルに入るのを待った。で、出た後に部屋を掃除。その結果問題のコンドームを発見したという次第。この間一週間。男は一八個のコンドームを使っていた。

（「フクニチ新聞」一一月二八日）

かなわぬ夢か、神戸“立ちション”追放運動

〔神戸発〕「国際都市神戸」のイメージアップをかけ声に、生田署が“立ち小便追放運動”に乗り出してから丸二年。これまで科料三〇〇〇円を払わされた輩は四九年五四六人、五〇年一八二九人、今年一～三月も一日平均五人のペースでちっとも減少していない。

同署管轄の三宮一帯は、市内最大の繁華街。しかし公衆便所がひとつもない。そこで宮崎辰雄市長が今年三月、「立ち小便がいっこうに減らないのは公衆便所がないせい。今後は派出所や駅など、公共施設のトイレを市民に開放してもらう」構想を打ち出し、ペーパー補填、清掃などを補助するための予算を組んだ。

ところが警察は「不特定多数が出入りすることは保安上困る」。駅側も「終電発車後はシャッターを下ろすのでトイレだけを開けておくことはできない」としていずれもノー。

いまや立ちション追放はかなわぬ夢になりつつある。

（「大阪新聞」五月四日）

怪奇

雪の中でのたうつ蛇、日本全国で動物の異変

日本中で動物の異変が続いている。秋田県大平山頂は五月でも積雪一メートルという山奥だが、その雪の中を蛇の大群が動きまわっているのが確認された。岩手県雫石町ではネズミが異常発生。一〇〇軒の農家が一日七〇〇〇匹捕まえているが追いつかない。また北九州市門司区の海岸には時ならぬ“甲イカ”の大群が来襲。イカは夜釣りと決まっているのに、昼間から三〇〇〇人もの釣り人ラッシュが続いている。

（「週刊女性自身」六月一〇日号）

シンボル
♨マークの乱用、晴れてラブホテル専門?

もともとは天然温泉のシンボルだった♨マークだが、近年“サカサクラゲ”のイメージが強くなりすぎたため、今年かぎりで全国の温泉地から姿を消してしまうことになった。

♨マークの誕生は明治一八年、陸軍参謀本部が軍用地図を作った際、温泉を示す記号として登場、「湯煙のぬくもりをよく表している」と、各地の温泉地で使われるようになった。が、使用制限のない悲しさ、ここ十数年、ラブホテルやモーテルのネオンに使われるようになった。この乱用に「健全温泉地までが色メガネで見られる」と日本温泉協会が♨マーク追放を決議し、近く“二代目”を決める。

（「週刊アサヒ芸能」五月四日号）

東急ハンズ提供

▲11月、神奈川県藤沢市に、東急ハンズ1号店が開店。

この年の初もの
布団のあげおろし専門会社 日光の旅館の布団を一手に

●**安眠用連続音装置**　波の音、雨の音などの単調な音で外部の不快音を中和、眠りに誘おうというもの。アメリカから輸入。

●**スピード違反取締り機**　警視庁がアメリカから二台輸入。一台一〇〇〇万円。

●**大型ディスカウントストア**　東京の荻窪に登場

毎日新聞社

▲ジーンズを着た、大阪・道頓堀のニューファミリー。

世界の動き

数百万人の犠牲者を出した〝内乱〟 10年間の「文化大革命」ついに終わる！

▲「四人組」をはじめとする「反革命集団」に対する中国最高人民法院特別法廷は、1980年11月20日に開廷。写真は第一法廷の江青（中央被告席）と王洪文（左）。裁判は81年1月25日終了。 新華社 中国通信

毛沢東が「共産主義の大道」を切り開こうとしてスタートさせた中国文化大革命。当初、その熱気は世界中に伝播、多くの共感者が拍手を送っていた。しかし「四人組」の逮捕はその悲惨な実態を明らかにすることになる。一体、文化大革命は何をもたらしたのか。

世界中が仰天した「四人組」逮捕報道

一九七六年一〇月一二日、毛沢東主席の死からわずか一ヵ月後、信頼できる中国筋は、「文革派上海グループのクーデター未遂事件が発覚、江青党政治局員（毛主席未亡人）、張春橋副首相、王洪文党副主席、姚文元党政治局員ら多数が逮捕された」と報道した。つい一ヵ月前、天安門広場での毛主席追悼大会で演説を行った華国鋒首相が、同じ壇上に立ち並んだ文革派の幹部たちを一網打尽にしたというのである。

矢吹晋横浜市立大学教授は、その第一報に接した時の驚きを次のように語る。

「一月の周恩来の死後、鄧小平が解任されるなど、かなり激しい権力争いがあるとは感じていましたが、絶対的存在である毛沢東を否定しかねない『四人組』の逮捕など、誰もできないと思っていました」

その夜北京では、市内の要所要所に武装した解放軍兵士が警戒にあたるなど、政治的余波に備えていた。

事実は次第に明らかになっていった。一〇月二二日、新華社電は「党を乗っ取り、権力を奪おうとした四人組の極悪行為を怒りをこめて糾弾したい……」と公式に四人の失脚を認めたのである。

▲張春橋。

▲江青。

▲姚文元。

▲王洪文。

「四人組」逮捕、失脚が確実であることを知った上海市民は大字報（壁新聞）を、次々に張り出した。そこには江青が魔法使いの老婆、王洪文は山賊のような目つきで描かれていた。

北京でも「四人組」追放の大規模なデモが繰り広げられ、一〇月下旬には、市内の中心部・長安街の街路樹には、縛り首にした四人の人形がくくりつけられた。

「四人組」の罪状が明らかにされたのは、逮捕から四年すぎた一九八一年一月のことであった。中国最高人民法院特別法廷（江華裁判長）は、「四人組」について、文化大革命の期間、「人民民主主義独裁、つまり国家機関、軍部機構、中国共産党などのプロレタリア独裁組織をくつがえすことを目的として、反革命集団を組織し、指導した主犯」と断定、「これらの犯罪は指導者の迫害、政府転覆、軍サボタージュをはじめ、若者の心を害し、少数民族の生活と自治権に危害を加え、一世代にわたって国家と人民に大災害をもたらした」と厳しい口調で糾弾した。江青、張春橋には死刑（執行猶予二年）、王洪文に無期懲役、姚文元には懲役二〇年の刑が言い渡された。特に江青は最後まで無罪を主張、退廷の時も床に寝ころびながら抵抗、文革路線の正当性を叫び続けていた。

紅衛兵と労働者による「造反有理」の大衆運動

文化大革命とは何だったのか。それはまさに毛沢東にとって、党中央での劣勢をはねかえし、みずからの革命思想を実践する壮大な実験場であった。

批判の矢は「資本主義の道を歩む実権派」に向けられ、知識人へと拡大していった。

文化大革命の象徴ともいえる紅衛兵によって北京大学に大字報が張り出されたのは一九六六年五月二五日のこと。大学当局と北京市党委員会を「反党反社会主義」と攻撃、紅衛兵と労働者による「造反有理」の大衆運動が全国各地で巻き起こった。

八月一八日、毛沢東は天安門広場で、全国から集まった一〇〇万人の紅衛兵と接見する。接見は前後八日にわたった。

初期の紅衛兵運動は「古い思想・文化・風俗・習慣の四つを打ち破る」ことを目標に社会の刷新運動として拡大、各地の仏閣や文化財は次々と破壊されていった。旧来の通りの名称が「反帝路」といった名に変えられたり、実施にはいたらなかったものの、赤い色は革命の色と言わんばかり、交通信号の規則を改正し、赤を「進め」、青を「止まれ」と変えてしまおうとする一幕もあった。

一九七三年六月の第一〇回党大会では文化大革命の継続が決定され、この過程

文化大革命　略年表

年月	出来事
1965年11月	●姚文元「新編歴史劇『海瑞罷官』を評す」を発表。文化大革命の始まり。
1966年 5月	●北京大学に大字報が張り出され、大学当局を攻撃。
8月	●「プロレタリア文化大革命についての16ヵ条決定」を採択。文革の方針が決まる。
8月	●毛沢東ら天安門広場で第1回目の紅衛兵接見。
1967年 7月	●江青ら、劉少奇、鄧小平夫婦をつるしあげ。
1968年 7月	●労働者らの毛沢東思想宣伝隊、大学などに入る。
1969年 4月	●第9回党大会。林彪を毛沢東の後継者に決定。
1971年 9月	●林彪、武装クーデター計画（失敗）。国外へ逃れる途中、墜落死。
1973年 3月	●鄧小平復活。
11月	●政治局会議で周恩来が批判される。
1974年10月	●「四人組」が政治局会議で鄧小平を攻撃。
11月	●毛沢東が江青の野心を批判。
1976年 1月	●周恩来死去。
4月	●鄧小平解任。
9月	●毛沢東死去。
10月	●「四人組」逮捕。
10月	●華国鋒、党主席、中央軍事委員会主席に就任。

▼上海では10月14日から「四人組」攻撃のデモが始まった。18日には最高潮に達し、100万人が参加。写真は壁新聞。 WWP

で急浮上した王洪文、そして江青、張春橋、姚文元が党の要職を占め、「四人組」が実質的に文化大革命を推し進めていったのである。

文化大革命の終焉と現実路線への転換

この文化大革命では武装闘争による数百万人の犠牲者と、当時の国民所得の三年分にあたる約五〇〇〇億元（現在のレートで約三五〇億円）の経済的な損失をもたらしたと言われている。

「四人組」の粛清はまさに文化大革命の終息と現実路線への転換を意味していた。「四人組」裁判終了後の一九八一年六月、中国共産党は公式に文化大革命を「指導者が間違って引き起こし、それが反革命集団に利用されて、党と国家と各民族人民に大きな災難をもたらした内乱である」と全面的に否定するにいたった。

そして、江青は一九九一年に自殺、王洪文は九二年に死亡、姚文元は釈放されたが、張春橋の消息は明らかにされていない。

矢吹教授は「文革は商品経済の排撃を極端まで進めようとした。物質的刺激をいっさい排除し、精神的刺激を一面的に強調して経済を運営しようとする理想的社会主義は破産した。しかし、文革という苦い果実を食べた若者の中から、社会主義を根底から疑うものが続出したことが、文革の最大の成果ではないか」と語っている。

▲1976年9月9日、毛沢東は82年の生涯を閉じた。写真は9月12日、毛沢東の遺体に別れを告げる各界代表。　新華社　中国通信

江青（1913〜1991）
もと映画女優。毛沢東夫人。一九三七年に延安に入り、三九年、毛沢東と結婚。延安の魯迅芸術学院の教授などを経て、文革では全軍小組顧問として活躍、政治局員となる。

張春橋（1918〜　）
一九五三年、「解放日報」社長。六五年、姚文元の「新編歴史劇『海瑞罷官』を評す」の発表を指導。六六年、中央文革小組副組長。七五年、副首相。

王洪文（1935〜1992）
上海市革命委員会副主任、中国共産党上海市委員会書記を経て、一九六九年、中央委員会委員。七三年、党副主席・党中央委実務委員。

姚文元（1931〜　）
文芸評論などで活躍。文革では中央文革小組の要職にあり、毛沢東、江青の片腕として活躍。一九六九年九月、中央政治局員。

外から見たNIPPON

ナマ身の日本人を映画化したジョン・ネイスンの制作意図

――佐伯　修

「日本人にはショッキングなことでしょうが、米国では日本人は、ナマ身の人間として意識されていないのです。〝毛唐〟がこの映画を見て、日本人てのは、ただの働きバチやトランジスタ屋なんぞではなく、オレたちと同じように皮肉で、複雑なヤツらなんだなァと、驚きとともに発見するなにかがあればいい」（『毎日新聞』九月一一日）

プリンストン大学で日本文学を講ずる、ジョン・ネイスン（一九三九〜）は、みずから監督したドキュメンタリー映画「フルムーン・ランチ（満月弁当）」の制作意図を訊かれて、啖呵をきった。ややきわどい、その文句には、欧米で流布され続ける映像の中で描かれる日本が、あいかわらずエキゾチシズムのイメージでしかなく、そこに日本人の血や肉がないことへの強い苛立ちがあった。

みずから「半毛唐」を以て任ずる彼は、「人形劇、茶の湯、踊りとかの日本伝統の紋切り型の映像」でも「ラッシュ・アワーの寿司詰めサラリーマンとかトランジスタを扱う無表情な少女といった近代日本のシンボル」（「『満月弁当』の制作について」）でもない日本人の姿を求めて、東京・谷中の仕出し弁当屋「すぎうら」の家族・従業員と、約一ヵ月間生活をともにする。

▶日本文学専攻の動機は、漢字への興味だという。　放送文化基金提供

こうして作られた「満月弁当」には、築地への買い出しには、きちんと背広を着て行く、戦時中は水兵だった「すぎうら」の主人の姿も、その主人が風呂上がりにステテコ一丁で孫と遊ぶ姿も、はては、休日にピンサロから出て来た住みこみ従業員の表情や、家族間の愚痴や泣き言まで収録されることになった。

「すぎうら」の主人は、撮影中、一度わざとネイスンを困らせてみたところ、ネイスンの落胆ぶりがひどかったので、かえってしんみり話し合って、以後うちとけたと語っている。

ネイスンはこの後、宮城の農家を舞台に「ファーム・ソング」を、また、「座頭市」の勝新太郎に密着して「ブラインド・ソードマン」を撮り、日本人についてのドキュメンタリー三部作を完成させる。クロード・ガニオン監督の「Ｋｅｉｋｏ」など、欧米人の作った映画の中でも日本人が、かつてない自然さで描かれ出したのはその頃からである。

なお、ネイスンには、日本の証券会社に勤めた経験があり、妻は日本人。三島由紀夫『午後の曳航』などの英訳や、『三島由紀夫　ある評伝』などの著書がある。

往きて還らぬ

▲3月17日　L・ビスコンティ(69)
映画監督。ネオリアリズムの第一人者で、代表作に「ベニスに死す」「地獄に堕ちた勇者ども」など。

▼1月2日　檀一雄(63)
小説家。昭和12年『花筐』でデビュー。無頼派作家として活躍した。代表作に『真説石川五右衛門』『火宅の人』など。

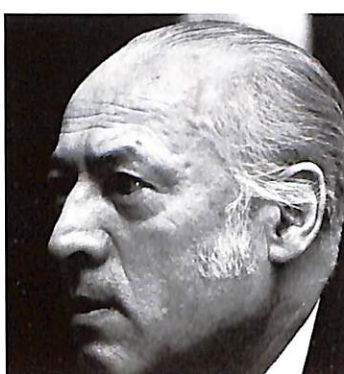
▲10月18日　森有正(64)
仏文学者。明治の元老・森有礼の孫。戦後パリ大学で日本文化を教えるかたわら、パスカルなどの研究も行った。

▲11月15日　ジャン・ギャバン(72)
フランスの映画俳優。荒削りのたくましさと庶民性で人気を集めた。主演作に「望郷」「大いなる幻影」など。

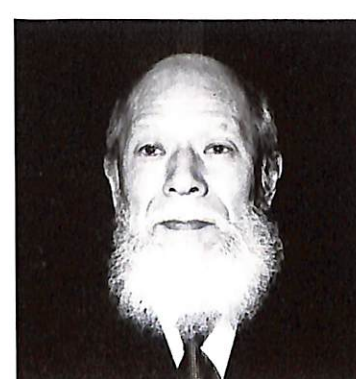
▲11月18日　マン・レイ(86)
写真家。シュルレアリスムの影響を受け、写真による前衛的表現を切り開く。代表作は「モンパルナスのキキ」。

▲9月4日　宮沢俊義(77)
憲法学者。新憲法の擁護者として知られ「自衛隊は戦力」と主張。プロ野球のコミッショナーもつとめた。

▲9月11日　石橋正二郎(87)
ブリヂストンの創設者。地下足袋にゴム底をつけるアイディアであて、昭和6年同社を設立。「タイヤ王」となった。

▲10月5日　武田泰淳(64)
小説家。昭和21年『才子佳人』で文壇デビュー。座談の名手として知られた。代表作に『司馬遷』『ひかりごけ』など。

▲3月22日　藤原義江(77)
オペラ歌手。日本のオペラ界の草分けで、昭和9年「藤原歌劇団」を創設。女性遍歴でも知られた。

▼4月9日　武者小路実篤(90)
小説家。明治43年志賀直哉、木下利玄らと「白樺」創刊。白樺派の代表的作家となる。代表作『お目出たき人』など。

▲1月12日　アガサ・クリスティー(85)
イギリスの推理小説家。明快なトリックで世界中にファンを作った。名探偵ポワロ・シリーズが有名。

▲1月19日　八木秀次(89)
大正15年〝八木アンテナ〟(テレビアンテナ)を発明。しかし国内では相手にされず、英・米がレーダーに利用した。

ミニ事典
1976年のキーワード

専修学校
職業や生活に役立つ実践的能力を育て、または教養の向上をはかるための学校。一月一一日、学校教育法改正施行で設置。修業年限一年以上、基準以上の授業時間数、生徒数四〇人以上を条件とし、文部大臣の認可を必要とした。設ける課程に応じて高等専修学校、専門学校を名乗ることもでき、既存の簿記など各種学校も専修学校に昇格することができた。

読売新聞社

▲1月18日に行われた第1回ジャパンボウル。

ジャパンボウル
全米大学体育協会（NCAA）が日本で開催するアメリカンフットボール公式戦。この年一月一八日、国立競技場で第一回目が行われ、大学四年生の選抜選手五三人が東西に分かれて対戦。東京オリンピック以来という六万八〇〇〇人の観客が熱戦に酔った。この試合をきっかけに、日本にフットボール・ブームが起こる。

筋拘縮症
筋肉への注射の乱用によって起こる機能障害。大腿四頭筋拘縮症などがあり、正常な歩行、走行、正座などができなくなる。幼児・児童を中心に昭和五〇年頃から発生、この年の四月一二日、日本小児科学会は安易な注射を戒めるなどの提言を発表。一二月二七日には山梨県の患者家族四九二人が国・医師・製薬会社に損害賠償を求める訴訟を起こした。

重要無形民俗文化財
信仰、年中行事、民俗芸能にかかわる習俗のうち、文化財保護審議会の答申に基づいて文部大臣が指定した特に重要なもの。習俗を行う時に用いる用具は有形民俗文化財でこの中に含まれない。五月四日に、岩手県大迫町早池峰神楽など三〇件が初めて指定を受けた。

パロディー裁判
写真家の白川義員が自分の写真を勝手に合成して作品にした、グラフィック・デザイナーのマッド・アマノを著作権侵害で訴えた裁判。五月一九日、東京高裁は白川の訴えを認めた一審判決をくつがえし、パロディーを独立した著作物と認めた。後に最高裁の差し戻し審を経て、昭和六二年、アマノが白川に慰謝料四〇万円を支払うことで両者は和解した。

▲パロディー作品を認められたマッド・アマノ。

毎日新聞社

▲8月23日開催の第1回安楽死国際会議。

偏差値時代
文部省が四〜五月に行ったアンケート調査で、中学校の多くが受験業者が作る模擬テストを利用、教師はその結果から算出される偏差値を、高校合否の予想資料にしていることが明らかになった。五月二〇日には東京都教育委員会も都内公立中学校の約八〇パーセントが正規の授業中に業者テストを受けさせ、利用しているとの実態を公表、自粛をうながしたが、効果はなかった。

賃金支払確保法
賃金不払いなどが生じた時、政府が事業主に代わって一定金額を支払うことなどを定めた法律。この年五月二七日公布、翌昭和五二年四月一日、全面施行。この法律は前年一一月、総評、同盟、中立、新産別が共同で労働大臣に対し「雇用・失業保障に関する緊急要求」を提出、さらにこの年の春闘を経て成立した。

安楽死東京宣言
東京で開催されていた安楽死国際会議が八月二四日発表した、人間は「品位ある死」の権利を保有しているという宣言。同会議にはアメリカ、イギリス、日本、オランダ、オーストラリア、フィリピンの代表者が出席。この年三月、米国で植物人間のカレンさんの両親に下された「人間の尊厳死」を認める判決とともに、大きな論議を巻き起こした。

環境アセスメント
工業開発や都市計画など環境に大きな影響をおよぼしそうな事業について、その環境影響を事前に調査、評価すること。環境汚染を未然に防ぐ効果的手段とされるが、法律は産業界からの反対で現在も制定されていない。地方自治体では、この年九月二九日に川崎市で条例が成立、翌昭和五二年六月に施行されたのをはじめ、五四年に北海道、五六年には東京都と神奈川県でそれぞれ条例が施行された。

対GNP一パーセント
防衛関係経費を、その年度の国民総生産（GNP）の一パーセント以内におさえること。一〇月二九日に今後の防衛計画が決定されたのにともなって、一一月五日、三木内閣が初めて決定した。防衛費の膨張に制約を加えたい世論と、財政難に悩む大蔵省の意向を汲んだもので、以後、昭和六二年度予算までこの枠は守られていた。

トキ保護
絶滅の危機にある特別天然記念物トキ（学名ニッポニア・ニッポン）を保護し繁殖させること。一二月三日、環境庁は第一回トキ保護対策委員会を開き、その人工繁殖を進めることを決めた。しかし、昭和五六年から新潟県の佐渡トキセンターで始まった人工孵化は、結局失敗に終わり、平成七年以降の日本のトキは繁殖能力のない一羽を残すのみとなった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1976
CONTENTS

●特集
「ロッキード社から五億円」〝角栄逮捕〟で政界に激震！……2
日本中が祝福した〝誕生と成長〟山下家「五つ子ちゃん」育児日記……6
戦後最大の〝サービス〟革命 宅急便「クロネコ」街を走る！……27
一〇年間で犠牲者数百万人「文化大革命」ついに終わる……38
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日……10・30
女たちの肖像
再ブームの夏目雅子デビュー 稲葉真弓……9
勝者・敗者
具志堅用高、世界王座獲得！ 阿部珠樹……9
証言・あの日この日 坪内祐三……15・31
20世紀博物館
機械じかけのおもちゃ館（神奈川） 桑原茂夫……26
「現場」を歩く
函館、ミグが舞い降りた日 山本徹美……17
美女倶楽部 伴田良輔……37
外から見たNIPPON
J・ネイスンの〝日本人〟映画 佐伯修……40
●人物クローズアップ
丸山千里、癌ワクチンの認可申請……20
●決定的瞬間
毛沢東死去！ 天安門広場の〝人の海〟……22
●美の出会い
木曽・妻籠宿の町並み保存……24
ベストセラー……18　スターと名場面……18
モノ語り'76……19　俄楽多市……36
往きて還らぬ……41　ミニ事典……42

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター／山口至剛
表紙デザイン／山口至剛デザイン室＋渡邉裕二
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス ㈱カマル社 シド・プロ 有マックス 有マライカ 鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順・吉田忠正
●写真協力
奥村健太郎 中西浩 中村正也 野上透 平野美津子 三沢博昭 望月誠
朝日新聞社 共同通信社 CORBIS・BETTMANN 時事通信社 集英社ジャンプコミックス 新華社 中国通信 中日新聞社 PPS 毎日新聞社 読売新聞社 WWP 川喜多記念映画文化財団 ジャパンヘルス 東急ハンズ 東宝 ビクターエンタテイメント 放送文化基金 ヤマト運輸

1989 平成元年 週刊 日録20世紀 4.22 ¥560 講談社
昭和天皇ご大喪！
吉野ケ里発掘で邪馬台国論争が白熱化 消費税3パーセント、混乱と不安のスタート 解放軍が人民に武力！天安門広場の惨劇

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀
第10号 4月8日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1989［平成元年］

●**特集**
一〇〇日を超えるご闘病のすえに 天皇崩御！ めまぐるしく動いた「昭和」最後の一日／「楼観に立てば邪馬台国が見える」やぐら跡・土器発見で〝吉野ケ里フィーバー〟／不安と苦情の中で「消費税三%」がスタート／学生・市民に人民軍が発砲！ 天安門広場「血の日曜日」

●**ニュース・ファイル**
フォト＋日録で再現する365日…江副リクルート前会長逮捕（2月13日）／ソ連軍、アフガニスタン撤退（2月15日）／女子高生コンクリート詰め殺人事件（3月30日）／和泉雅子、北極点到達（5月10日）／美空ひばり死去（6月24日）／幼女連続誘拐殺人事件（8月10日）／ベルリンの壁崩壊（11月11日）

●**人物クローズアップ**
〝ミスター半導体〟西澤潤一、文化勲章

●**決定的瞬間**
戦車の前に立ちはだかった中国人青年

●**美の出会い**
デザイナー・イッセイと「プリーツ」

●**女たちの肖像**…吉本ばなな「現象」／**勝者・敗者**…「マサカリ」村田兆治復活／**証言・あの日この日**…池波正太郎、中野翠／**20世紀博物館**…水島衣裳雑貨博物館（東京都・港区）／**「現場」を歩く**…宇都宮、採石跡大陥没／**外から見たNIPPON**…詩人レンドラと日本式〝対応〟

●**ベストセラー**…新しい感性『TUGUMI』／**スターと名場面**…大林宣彦「北京的西瓜」、北野武の初監督／**モノ語り'89**…健康飲料「はちみつレモン」

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号（2月18日号）1959［昭和34年］
好評発売中●世紀のご成婚！●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年！わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相の〝歴史的〟訪米

第2号（2月25日号）1964［昭和39年］
好評発売中●東京オリンピック開催！●新潟地震と産業都市のもろさ●新幹線「ひかり」、4時間で走る●米キング牧師にノーベル平和賞

第3号（3月4日号）1945［昭和20年］
好評発売中●マッカーサーの2000日●広島と長崎に原爆！死者は31万人●8月15日の「天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

第4号（3月11日号）1970［昭和45年］
好評発売中●三島由紀夫、割腹自殺！●EXPO '70で日本も大国の仲間入り●「よど号」ハイジャック●ウーマン・リブ、全米で10万人デモ

第5号（3月18日号）1963［昭和38年］
好評発売中●ケネディ暗殺事件！●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ車などオートバイ世界一に●えん罪晴れた〝昭和の巌窟王〟

第6号（3月25日号）1958［昭和33年］
好評発売中

第7号（4月1日号）1972［昭和47年］
好評発売中●連合赤軍「浅間山荘」事件●日中国交回復の〝乾杯！〟●27年ぶりに沖縄が日本に還る●テルアビブとミュンヘン五輪の流血

第8号（4月8日号）1980［昭和55年］
好評発売中●山口百恵が引退！●ついに日本車の生産台数が世界一に●衝撃の金属バット殺人事件と家庭内暴力●韓国光州事件の真相

■今後の刊行予定
▶第11号（4月29日号）1960［昭和35年］4月15日発売
〝安保〟で国内騒然●所得倍増計画発表●清張ブーム●コンゴ独立の悲劇
▶第12号（5月6日号）1961［昭和36年］4月22日発売
ガガーリン、宇宙へ●「金の卵」大モテ●アンネ発売●朴正熙、権力の座に
▶第13号（5月13・20日号）1962［昭和37年］4月28日発売
モンロー謎の死●「無責任男」大人気●東京が1000万都市に●YS11が翔ぶ
▶第14号（5月27日号）1965［昭和40年］5月13日発売
「11PM」放映開始●日韓条約可決●ジャルパックに人気●北爆開始
▶第15号（6月3日号）1966［昭和41年］5月20日発売
ビートルズ来日●航空機事故が相次ぐ●巨大タンカー登場●中国で文革
▶第16号（6月10日号）1967［昭和42年］5月27日発売
ツイッギー来日●リカちゃん人形発売●公害列島ニッポン●初の心臓移植
▶第17号（6月17日号）1968［昭和43年］6月3日発売
日大紛争と全共闘●若者と「あしたのジョー」●3億円事件●プラハの春
▶第18号（6月24日号）1969［昭和44年］6月10日発売
日本、GNP世界2位●安田講堂攻防戦●「男はつらいよ」●アポロ、月に
▶第19号（7月1日号）1941［昭和16年］6月17日発売
真珠湾攻撃●ゾルゲ逮捕●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦が始まる
▶第20号（7月8日号）1942［昭和17年］6月24日発売
ミッドウェー海戦●朝鮮人ら強制連行●戦争映画の隆盛●ユダヤ人虐殺

週刊 YEARBOOK
日録20世紀
1976
●角栄逮捕！政界に激震
4月15日号

第1巻第9号 通巻9号
平成9年4月15日発行（毎週火曜日発行）
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
（編集）03-3944-1293 （販売）03-5395-3604
定価560円 本体533円

雑誌 23703-4/15 T1123703040568
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社